

# 大淀川水系河川整備基本方針

大淀川水系の流域及び河川の概要

平成 2 8 年 7 月

国土交通省 水管理・国土保全局

# 目 次

	頁
第1章. 流域の自然条件	1
1－1 河川・流域の概要	1
1－2 地形	3
1－3 地質	3
1－4 気候・気象	5
第2章. 流域及び河川の自然環境	6
2－1 流域の自然環境	6
2－2 河川及びその周辺の自然環境	8
2－3 特徴的な河川景観や文化財等	20
2－4 自然公園等の指定状況	26
第3章. 流域の社会状況	29
3－1 人口	29
3－2 土地利用	30
3－3 産業・経済	31
3－4 交通	32
第4章. 水害と治水事業の沿革	34
4－1 既往洪水の概要	34
4－2 治水事業の沿革	50
第5章. 水利用の現状	52
5－1 水利用の変遷と現状	52
5－2 渇水被害と渇水対応の現状	53
5－3 水利用に係る今後の方向性	56

## 目 次

	頁
第 6 章. 河川の状況と水質	57
6－1 河川流況	57
6－2 河川水質	58
第 7 章. 河川空間の利用状況	61
7－1 河川の利用状況	61
7－2 河川敷の利用状況	63
第 8 章. 河道特性	66
第 9 章. 河川管理の現状	67
9－1 河川管理区間	67
9－2 河川管理施設	69
9－3 河道内植生	70
9－4 水防体制	71
9－5 危機管理の取り組み	74
第 10 章. 地域との連携	76

## 第1章 流域の自然条件

### 1-1 河川・流域の概要

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、岩瀬川等を合わせ東に転流して宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる流域面積2,230km<sup>2</sup>、幹川流路延長107kmに及ぶ九州屈指の河川である。

その流域は、宮崎県の南西部に位置し、鹿児島、熊本、宮崎の三県にまたがり、6市6町1村が含まれ、社会、経済、文化の基盤をなしているとともに、流域の一部が霧島錦江湾国立公園、九州中央山地国立公園の指定を受けるなど自然環境や景観も特に優れていることから、本水系に対する治水・利水・環境についての意義はきわめて大きい。

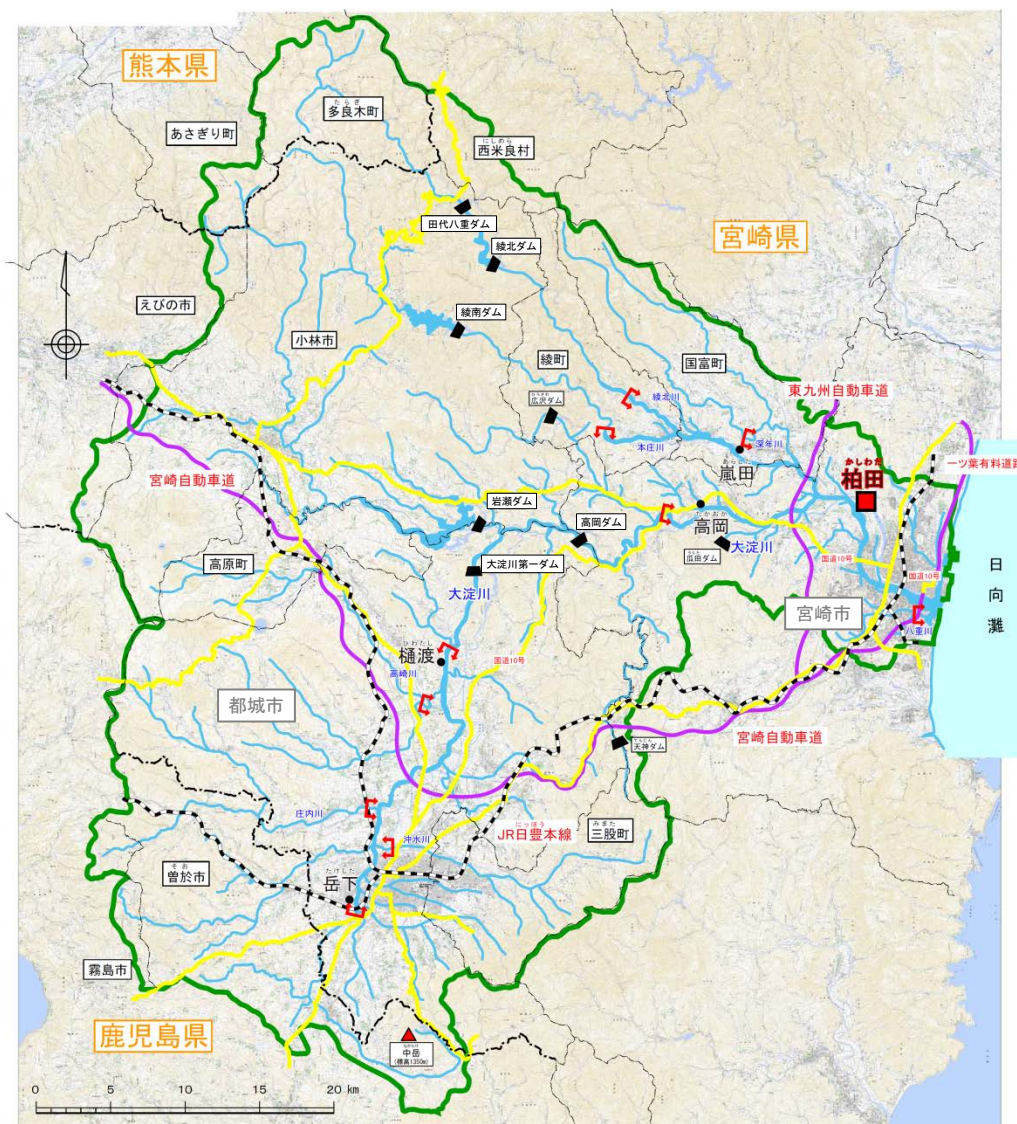


図1-1 大淀川水系流域図





#### ◀ 源流部

スギ・ヒノキ等の人工林で覆われた源流部。

#### 上流部 ▶

周辺の山々に囲まれて上流域を形成している都城盆地。



#### ◀ 中流狭窄部

都城盆地と宮崎平野の間に位置し、日向山地と鰐塚山地に挟まれた中流域狭窄部。

#### 下流(河口)部 ▶

沖積平野と洪積台地からなる、都市化の集中する下流域宮崎市街部。



## 1－2 地形

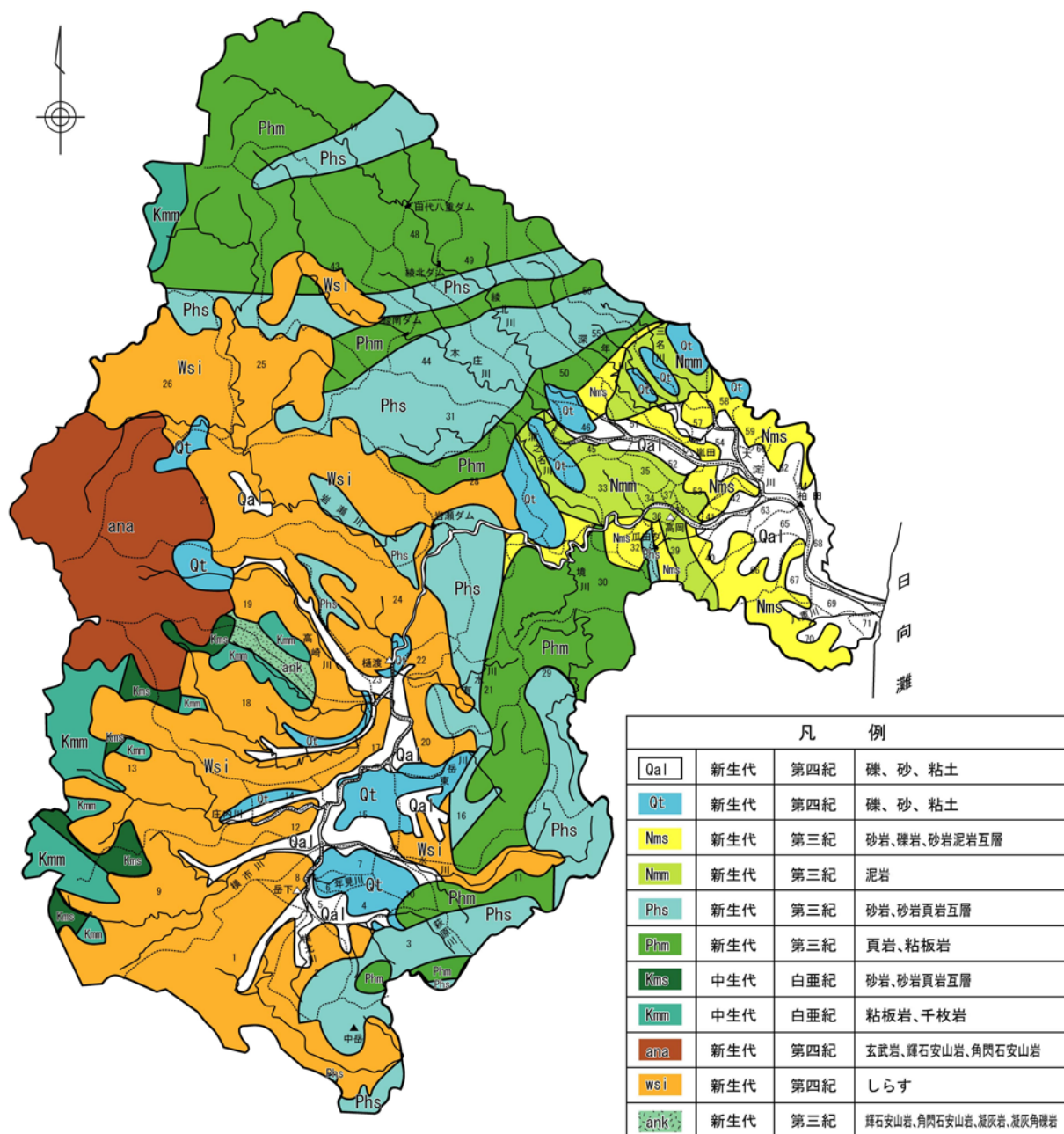
大淀川流域は東西約55km、南北約70kmで、やや長方形をなし轟付近の中流狭窄部を境とした上流域と下流域に分けられる。都城市を中心とした上流域の盆地は鰐塚山地と霧島火山部との間にあり、盆地内にはかなり広い段丘と沖積地とが発達している。大淀川は、その盆地内を流れる諸支川を合流して北流し、日向山地と鰐塚山地とがせばまる山間地の狭窄部に入り、高岡付近において宮崎平野に入る。

下流域は広い沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成しており、北西から流下する本庄川を合流し、日向灘に注いでいる。

## 1－3 地質

大淀川流域の地質は、源流部では中生代の四万十層群が400m内外の山地を形成しているが、都城盆地は第三紀から第四紀にかけて霧島火山群が噴火した際に陥没して形成されたといわれ、その盆地底には沖積層が発達しているが、大部分は厚い火山灰で覆われ、この地域でシラスと呼ばれる軽石の粉末、安山岩の破片、礫等からなる地層を成している。この盆地に流入する諸支川及び岩瀬川はいずれも火山灰地帯を流れ河岸に沿って狭長な沖積層が見られ、宮崎市高岡町から下流にいたっては第三紀層がみられ各所に火山灰をかぶっている。

一方、本庄川の綾北川合流点より上流及び綾北川は、中生代の四万十層群からなる険しい山岳の間を流れ、両川の合流点から下流に至り平地に出ている。図1－2でも明らかな様に、都城市付近のほか、広い範囲にわたりシラス層が分布している。



出典) 「九州地方土木地質図  
(九州地方土木地質図編纂委員

図1-2 大淀川流域地質図

#### 1-4 気候・気象

大淀川流域の気候は下流域が南海型気候、上流域（本庄川流域含）が山地型気候に属し、海岸地方では年平均気温が17℃内外であって、日本で最も温暖な地帯に属している。しかし、山沿いの地方では年平均気温が15℃以下となり、霧島山系のえびの高原では冬季の最低気温が氷点下20℃以下に下がることもある。

大淀川流域年平均降水量は2,600mm程度であり、鰐塚山地や日向山地等は2,900～3,000mm相当の多雨地域となっている。月別では6月～7月の梅雨期及び8月～9月頃の台風期に集中しており、特に台風が本流域に与える影響は大きく、既往の大出水のほとんどが台風によるものである。

気 候 区 分 図

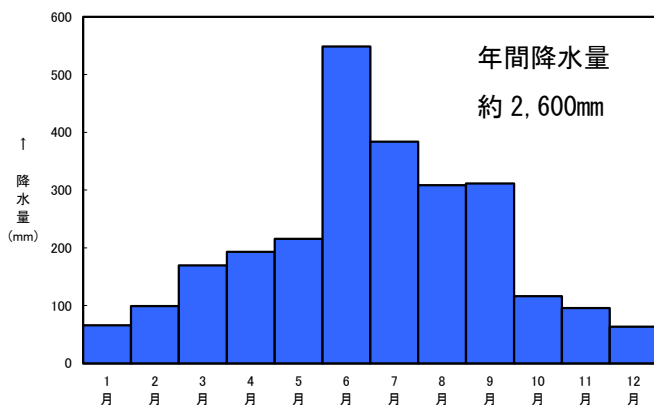
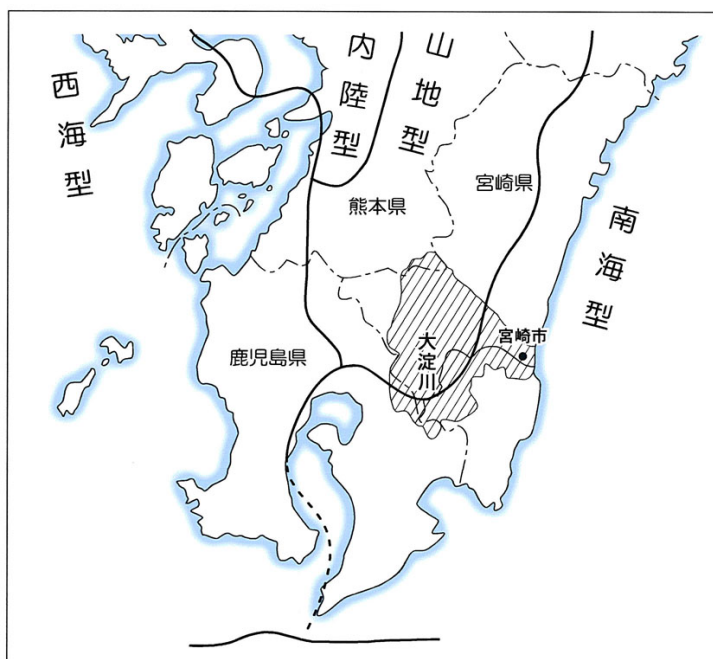


図1-3 月別降水量(1990～2013年の平均)

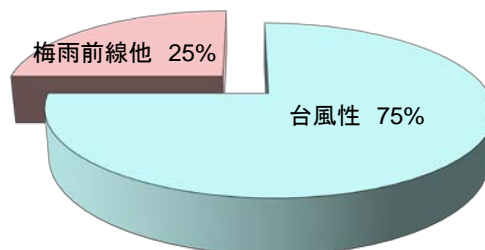


図1-4 洪水要因比較図

(主要地点で水防団待機水位を超過した計 86 洪水による)

## 第2章 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

大淀川は、その源を鹿児島県曾於郡中岳に発し、北流して都城盆地に出、多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、東に転流し岩瀬川等を合わせて宮崎市高岡町に出、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら日向灘に注いでいる。その流域は、中流狭窄部を境として都城盆地を中心とする上流部、宮崎平野を中心とする下流部に大別される。

流域の地質は、東は鰐塚山系、西は霧島火山部に挟まれ、火山灰土が広く分布しており、各支川はほぼ東西より本川に合流して都城盆地を形成している。中流部は狭谷状を成しており、地質は泥熔岩及びシラスである。下流部は沖積平野を形成し、宮崎平野の主要部を成している。

当流域は、南九州の多雨地域に位置し、さらに上流域の都城盆地を形成しているシラス土壤に起因して豊富な水量に恵まれ、既存の各種用水については安定供給されている。

このような大淀川の流域には、それぞれの流域の気候風土に順応した多種多様な環境が形成され、それにとまなう動植物も多数生息している。

源流から都城盆地に至る上流部は、ほとんどがシラスによって形成された谷底平野が広がる市街地と田園地帯を緩やかに流下する。河床は砂礫層から成り、瀬にはヨシノボリ類、オイカワ、淵にはコイ等が生息し、高水敷のオギ群落等の草地にはカヤネズミが確認されている。

日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部の中流部は、自然林と人工林が混在する陰しい地形の中を瀬と淵を交互に形成しながら流下する。河岸は広葉樹林や竹林等の河畔林が形成されている。

宮崎平野が広がる下流部最上流端付近の山付き区間は、スダジイ等の照葉樹林が分布する。流れが穏やかでやや深い淀みを有する汽水域には、多くの稚魚の生息場所となるコアマモ群落が分布し、その周辺には国内固有種で宮崎県や高知県などの一部の地域でしか大量に確認されていないアカメが生息する。河口周辺の砂浜ではアカウミガメの産卵がみられ、タブノキ等の河畔林で囲まれた丸島と呼ばれる中州は、ミサゴやサギ類等多くの鳥類が生息する多種多様な環境となっている。

最大支川の本庄川流域は、四万十層群に覆われた急峻な地形を有し、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、九州屈指の清流となっている。平野部にはいると蛇行が大きく、広い低水敷に形成されたワンドには、ササバモやミズキンバイ等の水生植物が生育し、ミナミメダカ等の良好な生息環境を創り出している。



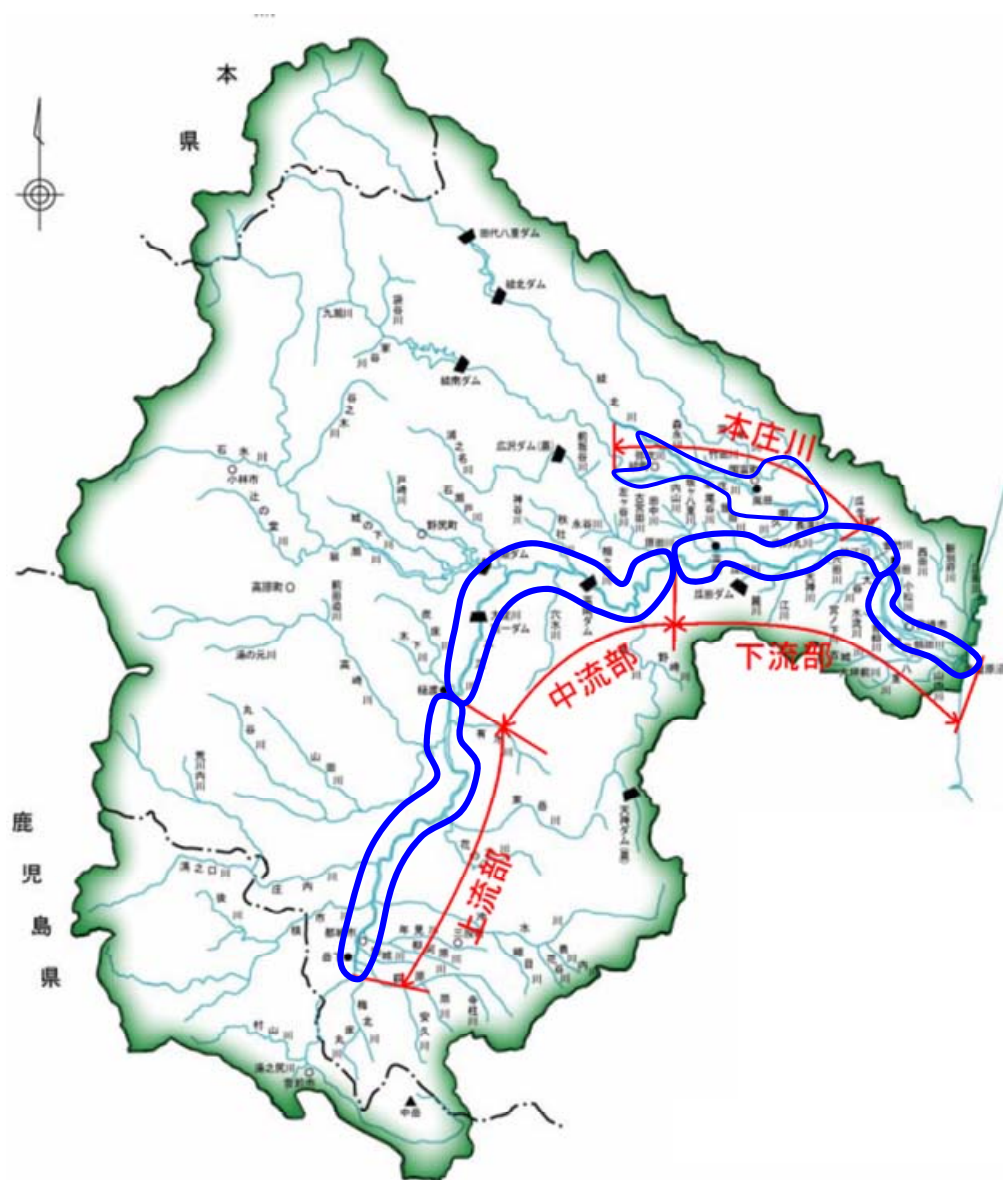


図2-1 大淀川流域区分図



## 2-2 河川及びその周辺の自然環境

### 1) 上流部

源流から都城盆地に至る上流部は、ほとんどがシラスによって形成された谷底平野が広がる市街地と田園地帯を緩やかに流下する。土の剥き出しとなっている自然河岸にカワセミやヤマセミが見られる。河床は砂礫層から成り、瀬にはヨシノボリ類、オイカワ、淵にはコイ等が生息する。高水敷のオギ群落等の草地にはカヤネズミ等が生息し、ゴマクサ等の明るい湿地環境を好む植物も生育する。



カワセミ



コイ



カヤネズミの球巢  
(県：準絶滅危惧)



ゴマクサ  
(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：準絶滅危惧)

## 2) 中流部

日向山地と鰐塚山地に挟まれた山間狭窄部の中流部は、自然林と人工林が混在する険しい地形の中を瀬と淵を交互に形成しながら流下する。河岸は広葉樹林や竹林等の河畔林が形成されている。瀬にはアユ、淵にはカワアナゴ等が生息する。河岸の樹林内にはコゲラ等が生息し、礫河原にはカジカガエル等が生息する。



アユ



カワアナゴ  
(県：準絶滅危惧)

### 3) 下流部

#### (1) 大淀川

宮崎平野が広がる下流部最上流端付近の山付き区間は、スダジイ等の照葉樹林が分布する。その下流は、瀬や淵が交互にみられ、瀬にはアユの産卵場が多数存在し、淵にはコイ等が生息する。水際にはタコノアシ等の湿性植物が生育する。さらに流れが穏やかでやや深い淀みを有する汽水域には、多くの稚魚の生息場所となるコアマモ群落が分布し、その周辺には国内固有種で宮崎県や高知県などの一部の地域でしか大量に確認されていないアカメが生息する。また、汽水域の砂泥底にはクボハゼをはじめとしたハゼ類も多く生息する。河口周辺の砂浜ではアカウミガメの産卵がみられ、タブノキ等の河畔林で囲まれた丸島と呼ばれる中州は、ミサゴやサギ類等多くの鳥類が生息する多種多様な環境となっている。水量が豊富なことからスズキがアユを追って中流淡水域まで遡上し、そのスズキやアユなどを捕獲する伝統漁法も現存する。



タコノアシ

(国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅱ類)



アカメ

(国：絶滅危惧ⅠB類、県：絶滅危惧Ⅱ類)



ミサゴ

(国：準絶滅危惧、県：準絶滅危惧)



スズキ

## (2) 本庄川

最大支川の本庄川流域は、四万十層群に覆われた急峻な地形を有し、国内でも貴重な照葉樹林帯の中を流れており、九州屈指の清流となっている。平野部にはいると蛇行が大きく、瀬や淵が交互にみられ、瀬にはアユの産卵場が多数存在する。広い低水敷に形成されたワンドには、ササバモやミズキンバイ等の水生植物が生育し、ミナミメダカ等の良好な生息環境を創り出している。



ミズキンバイ

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧Ⅰ類)



ミナミメダカ

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧Ⅱ類)

#### 4) 大淀川の生物

河川水辺の国勢調査結果をもとに、各生物相の概要を整理した。

表2-1 各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
魚類	平成21年度の現地調査では、14目32科80種が確認されている。 重要種は、メダカ、アカメ、スミウキゴリ等の15種が確認されている。 特定外来生物は、カダヤシ、ブルーギル、オオクチバスが確認されている。
底生動物	平成21年度の現地調査では、35目117科295種が確認されている。 重要種は、シオマネキ、トリウミアカイソモドキ、キイロサナエ等の35種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
植物	平成16～17年度の現地調査では、140科790種が確認されている。 重要種は、カワヂシャ、タコノアシ、ミゾコウジュ等の15種が確認されている。 特定外来生物は、オオキンケイギク、オオフサモ、ボタンウキクサが確認されている。 また、平成20年度の環境基図調査では、11種の重要種が確認されている。
鳥類	平成17年度の現地調査では、13目27科71種が確認されている。 重要種は、コアジサシ、ハヤブサ、ミサゴ等の8種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
両生類 爬虫類 哺乳類	平成25年度の現地調査では、両生類7種、爬虫類11種、哺乳類14種が確認されている。 重要種は、両生類のトノサマガエル、爬虫類のアカウミガメ、ニホンスッポン、シロマダラ、哺乳類のモモジロコウモリ、ユビナガコウモリ、カヤネズミが確認されている。 特定外来生物は、ウシガエルが確認されている。
陸上昆虫類	平成22年度の現地調査では、16目189科887種（昆虫類815種、クモ類72種）が確認されている。 重要種は、ベニイトトンボ、コムラサキ、ツマグロキチョウ、コガタノゲンゴロウ等の13種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。

表2-2 大淀川における河川水辺の国勢調査の実施状況

調査年度 調査項目	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
河川調査〔瀬・淵〕		●	●	●	●						●	●							●					●
魚類調査		●	●				●	●						●	●					●				
底生動物調査			●				●	●						●	●					●				
植物調査			●	●						●	●				●	●								
鳥類調査					●	●					●					●								
両生類・爬虫類・哺乳類調査				●					●					●										●
陸上昆虫类等調査		●	●			●	●					●	●								●			

※調査項目の序列は、「河川水辺の国勢調査マニュアル」に準拠して整理している。

これまで大淀川水系で実施された河川水辺の国勢調査結果等に基づき、学術上の重要性及び希少性の観点から、下表に示す選定基準に該当する種を重要種として選定した。大淀川の重要種を以下に示す。

表2-3(1) 重要種選定基準

文献 No.	区分	所管 管理者	年度	内容	選定対象 〈 〉 内略号
1	文化財保護法 文化財保護条例	文化庁 都道府県	1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物〈国天〉 都道府県指定天然記念物〈県天〉 市町村指定天然記念物〈市町天〉
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境庁	1993	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡、輸出入等の規制により保護	国内稀少野生動物種〈絶滅〉 (対象：植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
3	宮崎県野生動植物の保護に関する条例	宮崎県	2005	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡等の規制により保護	希少野生動植物一次指定〈一次〉 希少野生動植物二次指定〈二次〉 (対象：植物、魚類、鳥類、両生類、哺乳類、昆虫類)
4	レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-1哺乳類 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-2鳥類 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-3爬虫類・両生類 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-4汽水・淡水魚類 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-5昆虫類 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-6貝類 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-7其他無脊椎動物 レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-8植物Ⅰ レッドデータブック2014-日本の絶滅のおそれのある野生生物-9植物Ⅱ	環境省	2014	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物(クモ形類、甲殻類等)、植物(維管束植物)、植物(維管束植物以外：蘚苔類、藻類、地衣類、菌類)を対象	絶滅〈EX〉 野生絶滅〈EW〉 絶滅危惧ⅠA類〈CR〉 絶滅危惧ⅠB類〈EN〉 絶滅危惧Ⅰ類〈CR+EN〉 絶滅危惧Ⅱ類〈VU〉 準絶滅危惧〈NT〉 情報不足〈DD〉 絶滅のおそれのある地域個体群〈LP〉
5	宮崎県の保護上重要な野生生物 改訂・宮崎県版レッドデータブック2010年度版	宮崎県	2010	宮崎県における絶滅のおそれのある野生生物、植物群落を選定	絶滅〈EX-d〉 絶滅危惧ⅠA類 〈CR-r, CR-g, CR-d〉 絶滅危惧ⅠB類〈EN-r, EN-g〉 絶滅危惧Ⅱ類〈VU-r, VU-g〉 準絶滅危惧〈NT-r, NT-g〉 情報不足〈DD-1, DD-2〉 その他保護上重要な種 〈OT-1, OT-2〉
6	第2回 自然環境保全基礎調査 (特定植物群落調査)	環境庁	1978	学術上重要な群落、保護を必要とする植物群落を選定	特定植物群落〈重要〉



表2-3(2) 大淀川水系で確認された重要種(1)

生物	重要種
魚類	<p> ヤエヤマノコギリハゼ（環境省：絶滅危惧ⅠA類）  ニホンウナギ（環境省：絶滅危惧ⅠB類）  オオヨドシマドジョウ（環境省：絶滅危惧ⅠB類）  アカメ（希少野生動植物一次指定，環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）  タメトモハゼ（環境省：絶滅危惧ⅠB類）  チワラスボ（環境省：絶滅危惧ⅠB類）  クボハゼ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）  ミナミメダカ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）  ヨウジウオ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）  カマキリ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）  トビハゼ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）  シロウオ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）  エドハゼ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）  マサゴハゼ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）  ドジョウ（環境省：情報不足，宮崎県RDB：準絶滅危惧）  ナマズ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）  サクラマス(ヤマメ)（環境省：準絶滅危惧）  カワアナゴ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）  ヒモハゼ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）  スミウキゴリ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）  ウキゴリ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）  アシシロハゼ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）  ルリヨシノボリ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）  モツゴ（宮崎県RDB：情報不足） </p>

24 種

表2-3(3) 大淀川水系で確認された重要種(2)

生物	重要種	
底生動物	<p>           オオタニシ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類）            アリアケモドキ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類）            シオマネキ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類）            ミナミアシハラガニ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類）            ウモレベンケイガニ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類）            タケノコカワニナ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）            ナラビオカミミガイ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）            ウスコミミガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）            トリウミアカイソモドキ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）            グンバイトンボ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）            ヒロクチカノコガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            マルタニシ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            カワアイガイ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）            ムシヤドリカワザンショウガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            ウミゴマツボ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            コヤスツララガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            ハザクラガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            オチバガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            マシジミ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            ハマグリ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            ソトオリガイ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            ハクセンシオマネキ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            トゲアシヒライソガニモドキ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            ヒメヒライソモドキ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            タイワンヒライソモドキ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            キイロサナエ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）            コガタノゲンゴロウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            コオナガミズスマシ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）            ヨコミゾドROMシ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）            フトヘナタリガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            ヒメウズラタマキビガイ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            クリイロカワザンショウガイ（環境省：準絶滅危惧）            ヨシダカワザンショウガイ（環境省：準絶滅危惧）            モノアラガイ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            ドブガイ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            カラスガイ（環境省：準絶滅危惧）            ヤマトシジミ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：情報不足）            ヘコミカマカ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            アナジャコ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            カワスナガニ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            ヒメヤマトオサガニ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            スナガニ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            アカテガニ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            コフキヒメイトンボ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            クロサナエ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            アオサナエ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            オナガサナエ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            オオアメンボ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            ナベブタムシ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）            キベリマメゲンゴロウ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）            イボビル（環境省：情報不足）            ヤマトオサガニ（宮崎県RDB：情報不足）            ベンケイガニ（宮崎県RDB：情報不足）            アカテノコギリガザミ（宮崎県RDB：その他保護上重要な種）         </p>	54 種

表2-3(4) 大淀川水系で確認された重要種(3)

生物	重要種	
植物	クラマゴケ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） サツマシダ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ナガバノウナギツカミ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） サデクサ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ワダソウ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ツチグリ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ヨツバハギ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） マツバニンジン（環境省：絶滅危惧ⅠA類） ツゲ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ミズキンバイ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） マメダオシ（環境省：絶滅危惧ⅠA類，宮崎県RDB：情報不足） ミズトラノオ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ヒメシオン（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ホソバニガナ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） イトクズモ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ハナビゼキシノウ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） アマノホシクサ（環境省：絶滅危惧ⅠA類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ゴマシオホシクサ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ヤマアワ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ウキヤガラ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ビロードスゲ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ウマスゲ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ヒメガヤツリ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） フトイ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠA類） ヤワラハチジョウシダ（環境省：絶滅危惧ⅠB類） トゲハチジョウシダ（環境省：絶滅危惧ⅠB類） ヒメシダ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ヌカボタデ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） レンリソウ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） イヌハギ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） オオバクサフジ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） アオカズラ（環境省：絶滅危惧ⅠB類） ヒメミソハギ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ヤナギイボタ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ヒメナエ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） イガホオズキ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ノヒメユリ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） ヤマトミクリ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ツクシアブラガヤ（環境省：絶滅危惧ⅠB類） ガンゼキラン（希少野生動植物一次指定，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ウワバミソウ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） キンチャクアオイ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類） ミズマツバ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類） ヒュウガトウキ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） ロクオンソウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） イケマ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） スズサイコ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） ハナムグラ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類） グンバイヒルガオ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） ミズネコノオ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）	88 種

(続く)

表2-3(5) 大淀川水系で確認された重要種(4)

生物	重要種
植物	<p>             ヒメナミキ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ゴマクサ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              スズメハコベ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              マルバテイショウソウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              イナカギク（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ホソバオグルマ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）              アツバニガナ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）              オナモミ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：情報不足）              セキショウモ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ヒメコウガイゼキショウ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ホソイ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ナンゴクワセオバナ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ウシクグ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              エビネ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）              ヘゴ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              カワラナデシコ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ニッケイ（環境省：準絶滅危惧）              タガラシ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ウマノスズクサ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              コイヌガラシ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              タコノアシ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ツルフジバカマ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ハマボウ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ゴキヅル（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ガガイモ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              タニジャコウソウ（環境省：準絶滅危惧）              ミゾコウジュ（環境省：準絶滅危惧）              カワヂシャ（環境省：準絶滅危惧）              ハマニガナ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ササバモ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              コアマモ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ナガエミクリ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              イセウキヤガラ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              オニスゲ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）              シラン（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）              ボウラン（環境省：準絶滅危惧）              クサソテツ（宮崎県RDB：その他保護上重要な種）              ソテツ（宮崎県RDB：その他保護上重要な種）           </p>

88 種

表2-3(6) 大淀川水系で確認された重要種(5)

生物	重要種	
鳥類	ツクシガモ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） チュウヒ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） コシヤクシギ（環境省：絶滅危惧ⅠB類） コアジサシ（希少野生動植物一次指定，環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類） ハヤブサ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧） ウズラ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） シロチドリ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧） アカアシシギ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類） タカブシギ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類） コノハズク（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） アオバズク（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） フクロウ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類） チュウサギ（環境省：準絶滅危惧） クロサギ（宮崎県RDB：準絶滅危惧） ミサゴ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧） オオタカ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧） ハイタカ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧） クイナ（宮崎県RDB：準絶滅危惧） ヒクイナ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧） オジロトウネン（宮崎県RDB：準絶滅危惧） ハマシギ（環境省：準絶滅危惧） コミミズク（宮崎県RDB：準絶滅危惧） アカショウビン（宮崎県RDB：準絶滅危惧） ケリ（環境省：情報不足） ホオアカ（宮崎県RDB：その他保護上重要な種）	25 種

表2-3(7) 大淀川水系で確認された重要種(6)

生物	重要種	
両生類	アカハライモリ（環境省：準絶滅危惧） ニホンヒキガエル（宮崎県 RDB：準絶滅危惧） トノサマガエル（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）	3 種
爬虫類	アカウミガメ（宮崎県指定天然記念物，環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県 RDB：準絶滅危惧） ニホンイシガメ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県 RDB：絶滅危惧Ⅱ類） ニホンスッポン（環境省：情報不足，宮崎県 RDB：情報不足） シロマダラ（宮崎県RDB：情報不足）	4 種
哺乳類	モモジロコウモリ（宮崎県 RDB：準絶滅危惧） ユビナガコウモリ（宮崎県 RDB：準絶滅危惧） カヤネズミ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）	3 種

表2-3(8) 大淀川水系で確認された重要種(7)

生物	重要種	
陸上 昆虫類	<p>モートンイトトンボ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）</p> <p>シルビアシジミ（環境省：絶滅危惧ⅠB類，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>ツマグロキチョウ（環境省：絶滅危惧ⅠB類）</p> <p>セスジゲンゴロウ（宮崎県RDB：絶滅危惧ⅠB類）</p> <p>シジミガムシ（環境省：絶滅危惧ⅠB類）</p> <p>ベニイトトンボ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>ハウチワウンカ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>コムラサキ（宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>ウラナミジャノメ本土亜種（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>ギンモンアカヨトウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>キバネキバナガミズギワゴミムシ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>コガタノゲンゴロウ（環境省：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>コガムシ（環境省：情報不足，宮崎県RDB：絶滅危惧Ⅱ類）</p> <p>シロヘリツチカメムシ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>ギンイチモンジセセリ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>ミヤマチャバネセセリ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>ゴイシシジミ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>ウスミモンキリガ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>ヒトツメアオゴミムシ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>オオトックリゴミムシ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>ホソセスジゲンゴロウ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>マルケシゲンゴロウ（環境省：準絶滅危惧，宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>ケシゲンゴロウ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>キベリクロヒメゲンゴロウ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>シャープツブゲンゴロウ（環境省：準絶滅危惧）</p> <p>アオカナブン（宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>タマムシ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>ニホンミツバチ（宮崎県RDB：準絶滅危惧）</p> <p>サイゴクイナゴ（宮崎県RDB：情報不足）</p> <p>ヤマトスナハキバチ（環境省：情報不足）</p>	30 種



## 2-3 特徴的な河川景観や文化財等

### 1) 観光及び景勝地

流域内には2つの国立・国定公園及び2つの県立自然公園があり、支川庄内川上流にある甌穴群や関之尾の滝、綾南川上流のままこ滝、岩瀬川上流の三之宮峡等の景勝地が数多く点在し、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わいを見せる。



関之尾の滝と甌穴

日本の滝100選にも選ばれた関之尾滝は、幅40m、高さ18mにも及ぶ大滝、そして木々の間から流れ落ちる男滝、女滝の3つの滝からなる。

流れる水の力が、川底の小石や岩石の破片を回転させることによりできた穴である関之尾甌穴群（天然記念物）は世界最大級の規模であり、地質学上でも貴重な資料とされている。



三之宮峡

岩瀬川上流で約4km続く谷間にある。アユやニジマスが泳ぐ透き通った川の周りには、そびえ立つ高さ30mの“びょうぶ岩”や30畳ほどの広さをもつ“カップ洞”などユニークな景観を持つ。



#### 長田峡

沖水川の上流10kmにわたる深い谷間にある。春には山桜が、秋には紅葉も楽しみ、清らかな水にはヤマメやウグイが泳いでいる。

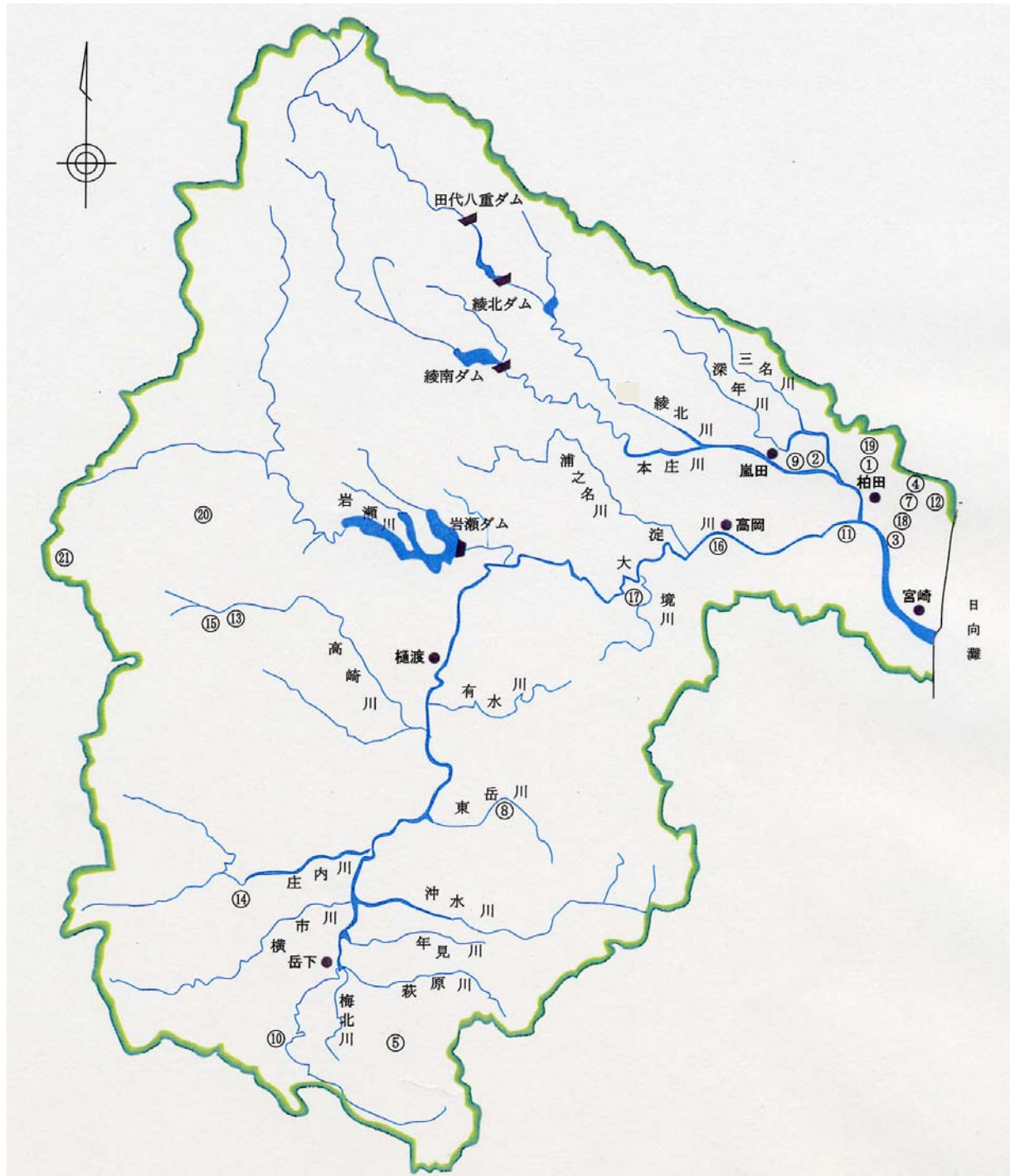


#### ままこ滝

季節ごとに、ちがう風景をみせる森が、深みのある色合いの水をたたえる小野湖の水面に映え、その奥にはしづきをあげて流れ落ちる名滝の景観。昭和8年には「須木の滝」として県の名勝に指定されています。

## 2) 文化財

大淀川流域には歴史的に重要な文化財・史跡が多く、表2-4に示すとおり国指定で21件、県指定で73件もの文化財が存在する。



注) 番号は、表2-1(1)大淀川流域内文化財一覧表（国指定）中の番号を示す。

図2-2 大淀川流域内国指定文化財位置図

表2-4(1) 大淀川流域内文化財一覧表

(1) 国指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	重 文	木造薬師如来及び両脇侍像 (三軀)	宮崎市 (王楽寺)	S19. 9. 5
2	重 文	木造阿弥陀如来及び両脇侍像 (三軀)	国富町 (万福寺)	S19. 9. 5
3	重 文	旧 黒 木 家 住 宅	宮崎市 (県総合博物館)	S48. 2. 23
4	重 文	旧 藤 田 家 住 宅	宮崎市 (県総合博物館)	S48. 2. 23
5	重 文	興 玉 神 社 内 神 殿	都城市 (興玉神社)	S58. 6. 2
6	重 文	紺糸威紫白肩裾胴丸大袖付	都城市 (都城歴史資料館)	H 6. 6. 28
7	重 有	日 向 の 山 村 生 産 用 具	宮崎市 (県総合博物館)	H 5. 4. 15
8	重 無	山 之 口 の 文 弥 人 形	山之口町 (麓文弥節人形浄瑠璃資料館)	H 7. 12. 26
9	史 跡	本 庄 古 墳 群	国富町	S 9. 8. 9
10	史 跡	今 町 一 里 塚	都城市	S10. 12. 24
11	史 跡	生 目 古 墳 群	宮崎市	S18. 9. 8
12	史 跡	蓮 ヶ 池 横 穴 群	宮崎市	S46. 7. 17
13	天	狭 野 ス ギ 並 木	高原町 (狭野神社)	T13. 12. 9
14	天	関 之 尾 の 颯 穴	都城市関之尾町	S 3. 2. 18
15	天	高 岡 の 月 知 梅	高岡町	S10. 12. 24
16	天	去 川 の イ チ ョ ウ	高岡町	S10. 12. 24
17	天	宮 崎 神 宮 の オ オ シ ラ フ ジ	宮崎市 (宮崎神宮)	S26. 6. 9
18	天	瓜生野八幡神社のクスノキ群	宮崎市 (瓜生野八幡神社)	S26. 6. 9
19	天	エヒメアヤマ自生南限地帯	小林市	S43. 6. 14
20	天	甕 岳 針 葉 樹 林	えびの市	S44. 8. 22
21	天	竹 野 の ホ ル ト ノ キ	綾町	S52. 2. 17

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所在地	指定年月日
1	重 文	木 造 弘 法 大 師 坐 像	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
2	重 文	神 面	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
3	有 文	木造阿弥陀如来座像 (一軀)	宮崎市 (県総合博物館)	S40. 8. 17
4	有 文	木造薬師陀如来座像 (一軀)	宮崎市 (県総合博物館)	S40. 8. 17
5	有 文	木造薬師如来及び両脇侍像 (三軀)	国富町 (法華嶽薬師寺)	S40. 8. 17
6	有 文	須 弥 壇 (一基)	国富町 (法華嶽薬師寺)	S40. 8. 17
7	有 文	朱 塗 丸 盆 (四枚)	都城市	S40. 8. 17
8	有 文	六 地 蔵 幢	小林市	S40. 8. 17
9	有 文	木造阿弥陀如来座像 (一軀)	綾町 (川中神社)	S46. 6. 11
10	有 文	米良の民家 旧黒木幸見家住宅	宮崎市 (県総合博物館)	S52. 4. 1
11	有 文	土 持 文 書	宮崎市 (県総合博物館)	S58. 1. 21
12	有 文	東 霧 島 の 梵 鐘	高崎町 (東霧島神社)	S60. 12. 17
13	有 文	木造薬師如来座像 (一軀)	国富町	S61. 3. 25
14	有 文	木造聖観音菩薩座像 (一軀)	国富町	S61. 3. 25
15	有 文	男神像及び女神像 (四軀)	都城市美川町 (千足神社)	S34. 7. 10
16	有 文	兼 喜 神 社 社 殿	都城市都島町	H 6. 11. 28
17	無 民	輪 太 鼓 踊	小林市	S37. 5. 15
18	無 民	バ ラ 太 鼓 踊	国富町	S37. 5. 15
19	無 民	祓 川 神 楽	高原町	S44. 4. 1

(凡例) 重文：重要文化財      重有：重要有形民俗文化財      無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財      重：重要無形文化財      有文：有形文化財  
 天：天然記念物

注) 2010年版宮崎県観光要覧(平成22年 4月：宮崎県)より。



表2-4(2) 大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
20	無 民	山 之 口 麓 文 弥 節 人 形 浄 瑠 璃	山之口町	S47. 8. 5
21	無 民	熊 襲 踊	都城市	S47. 9. 26
22	無 民	山 之 口 弥 五 郎 ど ん ま つ り	山之口町	H 2. 3. 27
23	無 民	高 木 の 揚 げ 馬	都城市	H 6. 3. 25
24	無 民	花 木 あ げ 馬	山之口町	H 6. 3. 25
25	無 民	穂 満 坊 あ げ 馬	高城町	H 6. 3. 25
26	無 民	末 吉 住 吉 神 社 の 流 簀 馬	鹿児島県末吉町二之方住吉	S56. 3. 27
27	無 民	末 吉 町 熊 野 神 社 の 鬼 追 い	鹿児島県末吉町深川	H 6. 3. 16
28	無 民	西 米 良 神 楽	西米良村	H 9. 3. 18
29	史 跡	去 川 の 関 跡	高岡町	S 8. 12. 5
30	史 跡	刀 工 田 中 国 広 宅 跡	綾町	S 8. 12. 5
31	史 跡	本 庄 の 石 仏	国富町	S 8. 12. 5
32	史 跡	谷 村 計 介 旧 宅 跡	宮崎市	S 8. 12. 5
33	史 跡	何 欽 吉 の 墓	都城市	S 9. 4. 19
34	史 跡	伊 東 塚	小林市	S 9. 4. 17
35	史 跡	祝 吉 御 所 跡	都城市	S 9. 4. 17
36	史 跡	池 の 原 一 里 塚	野尻町	S11. 7. 17
37	史 跡	漆 野 原 一 里 塚	野尻町	S11. 7. 17
38	史 跡	石 器 時 代 住 居 跡 尾 平 野 洞 窟	都城市	S32. 12. 15
39	史 跡	東 麓 石 窟 仏	野尻町	S32. 12. 15
40	史 跡	本 田 遺 跡	小林市	S51. 3. 26
41	史 跡	赤 江 町 古 墳	宮崎市	S 8. 12. 5
42	史 跡	野 尻 町 古 墳	野尻町	S 8. 12. 5
43	史 跡	綾 町 古 墳	綾町	S 8. 12. 5
44	史 跡	倉 岡 村 古 墳	宮崎市	S 8. 12. 5
45	史 跡	都 城 市 古 墳	都城市	S 9. 4. 17
46	史 跡	志 和 池 村 古 墳	都城市	S 9. 4. 17
47	史 跡	須 木 村 古 墳	須木村	S 9. 4. 17
48	史 跡	八 代 村 古 墳	国富町	S 9. 4. 17
49	史 跡	高 城 町 古 墳	高城町	S10. 7. 2
50	史 跡	都 城 市 沖 水 古 墳	都城市	S11. 7. 17
51	史 跡	山 之 口 村 古 墳	山之口町	S11. 7. 17
52	史 跡	木 脇 村 古 墳	国富町	S11. 7. 17
53	史 跡	宮 崎 市 大 淀 古 墳	宮崎市	S12. 7. 2
54	史 跡	木 花 村 古 墳	宮崎市	S12. 7. 2
55	史 跡	住 吉 町 古 墳	宮崎市	S19. 12. 15
56	史 跡	本 庄 町 古 墳	国富町	S19. 12. 15
57	史 跡	小 林 町 古 墳	小林市	S14. 1. 27
58	史 跡	宮 崎 市 下 北 方 古 墳	宮崎市	S14. 4. 21
59	史 跡	高 岡 町 古 墳	高岡町	S17. 6. 23
60	史 跡	高 崎 町 古 墳	高崎町	S17. 6. 23
61	史 跡	生 目 村 古 墳	宮崎市	S19. 12. 15
62	史 跡	高 原 町 古 墳	高原町	S19. 12. 15
63	史 跡	瓜 生 野 村 古 墳	宮崎市	S19. 12. 15
64	史 跡	池 内 横 穴	宮崎市	S47. 5. 26

(凡例) 重文：重要文化財                      重有：重要有形民俗文化財                      無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財              重：重要無形文化財                      有文：有形文化財  
 天：天然記念物

注) 2010年版宮崎県観光要覧(平成22年 4月：宮崎県)より。

表2-4(3) 大淀川流域内文化財一覧表

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
65	史 跡	船 塚 古 墳	高原町	S52. 4. 1
66	天	大 師 の コ ウ ヤ マ キ	熊本県多良木町槻木	S44. 3. 20
67	天	溝 ノ ロ 洞 穴	鹿児島県財部町大塚厚	S30. 1. 4
68	名 勝	須 木 の 滝	須木	S 8. 12. 5
69	天	森 永 の 化 石 群	国富町	S12. 7. 2
70	天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎市(延岡市, 日南市)	S55. 6. 24
71	天	綾 の イ チ イ ガ シ	綾町	S60. 1. 4
72	天	天 林 寺 の オ ハ ツ キ イ チ ョ ウ	宮崎市(天林寺境内)	S60. 12. 17
73	天	山 田 の イ チ ョ ウ	山田町	S14. 1. 27

(凡例) 重文：重要文化財                      重有：重要有形民俗文化財                      無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財              重：重要無形文化財                      有文：有形文化財  
 天：天然記念物

注) 2010年版宮崎県観光要覧(平成22年 4月：宮崎県)より。



高岡町去川の大イチョウ(国指定天然記念物)

樹齢800年、幹周約10m、高さ約41mの古木で、島津家初代忠久公が薩摩街道のこの地に植えたといわれています。



興玉神社内神殿(国指定重要文化財)

宮崎県最古の建造物であり、その様式は、禅宗様(唐様)といい、禅宗とともに寺院建築の新様式として、中国大陸から鎌倉時代に伝来し、日本全土に広まっている。



蓮ヶ池横穴群(国指定史跡)

市街北方の国道10号沿い、小池の散在する丘陵地の斜面にある。6,7世紀ごろの築造と見られる横穴古墳が、現在82基確認されており、この地方の古代を知るうえでの貴重な史料となっている。



#### 2-4 自然公園等の指定状況

大淀川流域は、自然環境に恵まれた地域が多く、図2-3～4及び表2-5に示すように自然公園及び鳥獣保護区域が設定されている。

また、霧島山系とその周辺においては、自然の多様性とそれを育む火山活動をテーマとした「霧島ジオパーク」が日本ジオパークとして認定されているとともに、支川の本庄川や綾北川の上流域においては、生態系の保全と維持可能な利活用の調和を持つ地域として、綾地域が「綾ユネスコパーク」として登録されている。



霧島錦江湾国立公園



九州中央山地国定公園



母智丘・関之尾県立自然公園



わにづか県立自然公園

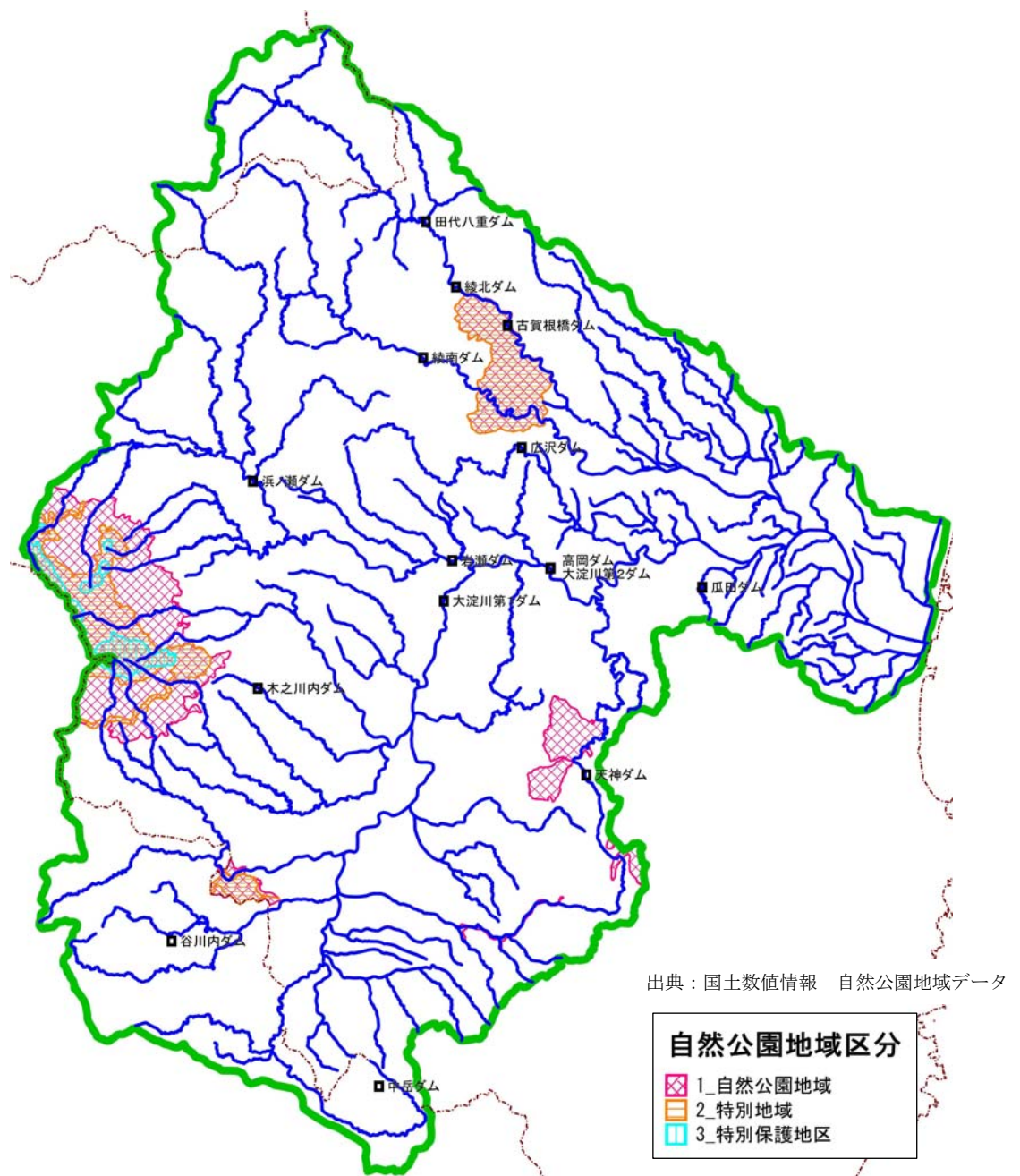


図2-3 自然公園位置図

表2-5 自然公園

種別	公園名	流域内 関係市町村	指定年月日	備考
国立・国定公園	霧島屋久国立公園	えびの市、小林市 都城市、高原町	S 9. 3. 16 特別保護地区 S42. 3. 23	25座の集成火山、暖帯多雨林 ミヤマキリシマの大群落。
	九州中央山地 国定公園	小林市、綾町 西米良村	S57. 5. 15	原生林のすぐれた自然景観と 豊かな動植物、歴史的文化財 資源に富む。
県立自然公園	母智丘・関之尾 県立自然公園	都城市	S33. 9. 1 特別地域 S46. 2. 5	滝と甕穴、桜並木
	わにつか 県立自然公園	宮崎市、都城市 三股町、山之口町	S36. 3. 31 拡張の特別地域 S41. 12. 24	山頂展望、溪谷、滝



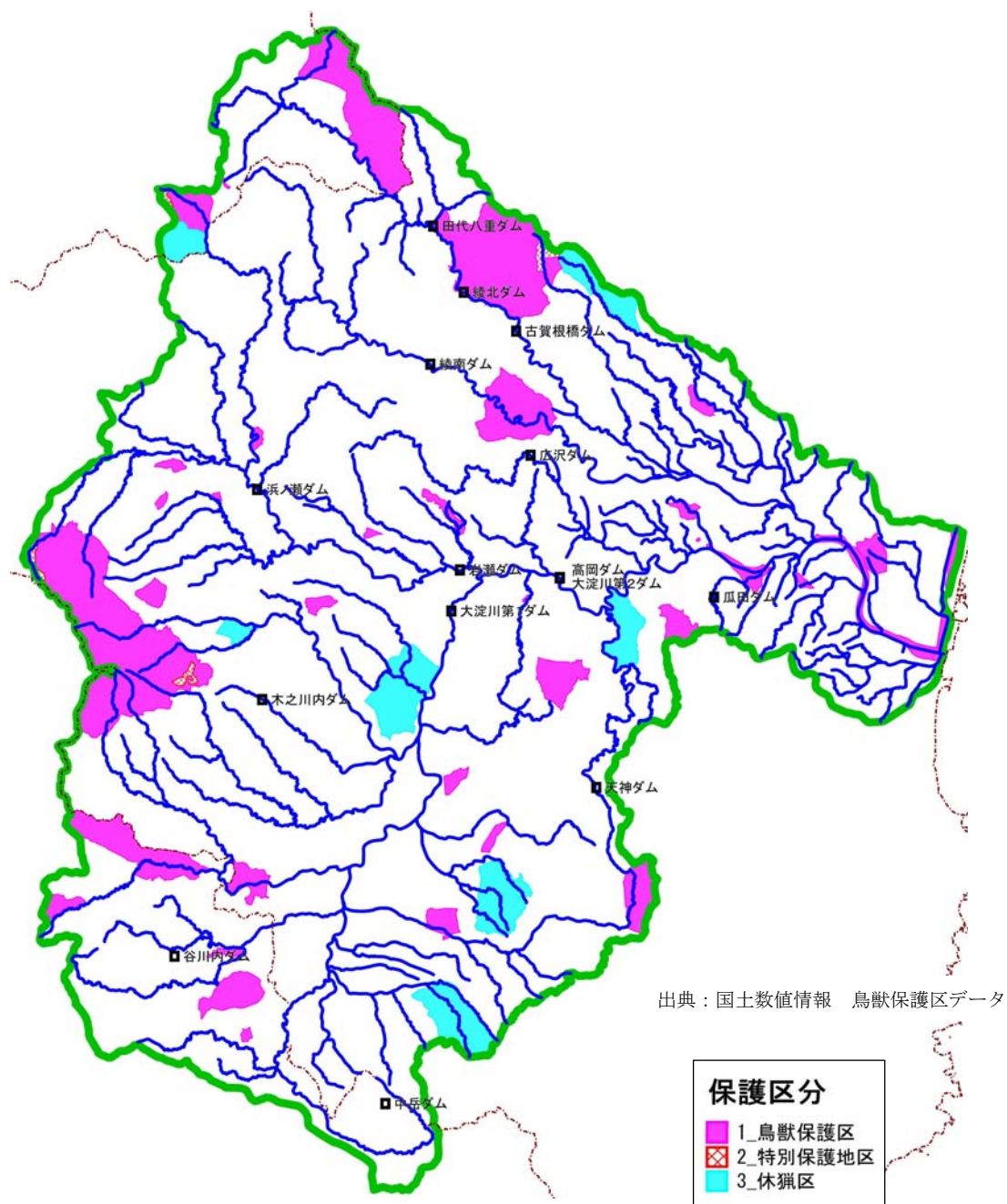


図2-4 鳥獣保護区指定区域図

### 第3章 流域の社会状況

#### 3-1 人口

大淀川流域の関係自治体は、宮崎市や都城市をはじめ6市6町1村からなり、平成22年現在で流域内人口は約60万人、氾濫防御区域内人口は15万人となっている。

表3-1 流域内人口の推移

年次 区分	昭和35年 (人)	昭和40年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	平成22年 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
流域内	434,708	436,968	509,101	567,377	566,554	585,767	601,321	599,085	596,822	603,018	270.4
想定氾濫 区域内	—	—	—	—	—	—	133,803	140,943	141,822	148,024	1,655.7
宮崎市	—	—	291,157	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583	—

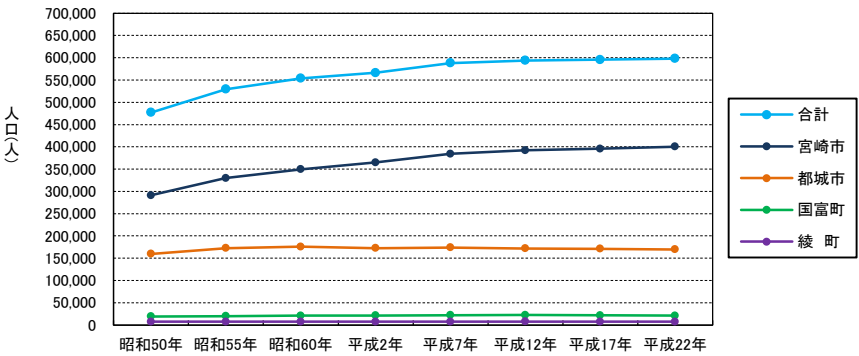
【出典：流域内人口・想定氾濫区域内人口は「河川現況調査」、宮崎市人口は「国勢調査」】

表3-2 流域関連主要市町人口の推移

区分	市町村名		人口(人)							
			昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
市	宮崎市	旧宮崎市	234,347	264,855	279,114	287,352	300,068	305,755	310,123	316,198
		旧清武市	11,765	14,528	16,629	22,507	27,127	28,755	28,696	28,891
		旧田野町	9,856	10,806	11,417	11,645	12,428	12,321	11,580	11,025
		旧佐田原町	22,715	26,932	29,607	30,758	31,827	32,499	32,981	32,941
		旧高岡町	12,474	12,630	12,698	12,818	12,941	12,848	12,213	11,528
		計	291,157	329,751	349,465	365,080	384,391	392,178	395,593	400,583
	都城市	旧都城市	118,289	129,009	132,098	130,153	132,714	131,922	133,062	134,050
		旧山之口町	7,106	7,773	7,743	7,614	7,561	7,322	6,935	6,635
		旧高城町	12,727	13,591	13,804	13,321	12,915	12,570	11,944	11,191
		旧山田町	8,597	8,997	8,932	8,781	8,811	8,615	8,288	7,809
		旧高崎町	12,907	13,285	13,151	12,724	12,053	11,383	10,726	9,917
計	159,626	172,655	175,728	172,593	174,054	171,812	170,955	169,602		
町	国富町	19,050	19,864	21,161	21,339	22,130	22,367	21,692	20,909	
	綾 町	7,339	7,264	7,309	7,385	7,419	7,596	7,478	7,224	
合計			477,172	529,534	553,663	566,397	587,994	593,953	595,718	598,318

注1) 市町村別人口は、「国勢調査報告(総務省統計局)」による。

【出典：宮崎県統計年鑑】



【出典：宮崎県統計年鑑】

図3-1 流域関連人口の推移

### 3-2 土地利用

#### 1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山林が全体の約69%を占め、水田や畑、果樹園等の農地が約22%、宅地等市街地が約9%の割合になっている。

表3-3 土 地 利 用 の 現 況

項 目	面 積 (km <sup>2</sup> )	全面積に占める割合(%)
流 域 面 積	2,230.0	100
森 林 面 積	1,538.7	69
耕 地 面 積 ( 田 ・ 畑 )	490.6	22
宅 地 そ の 他	200.7	9

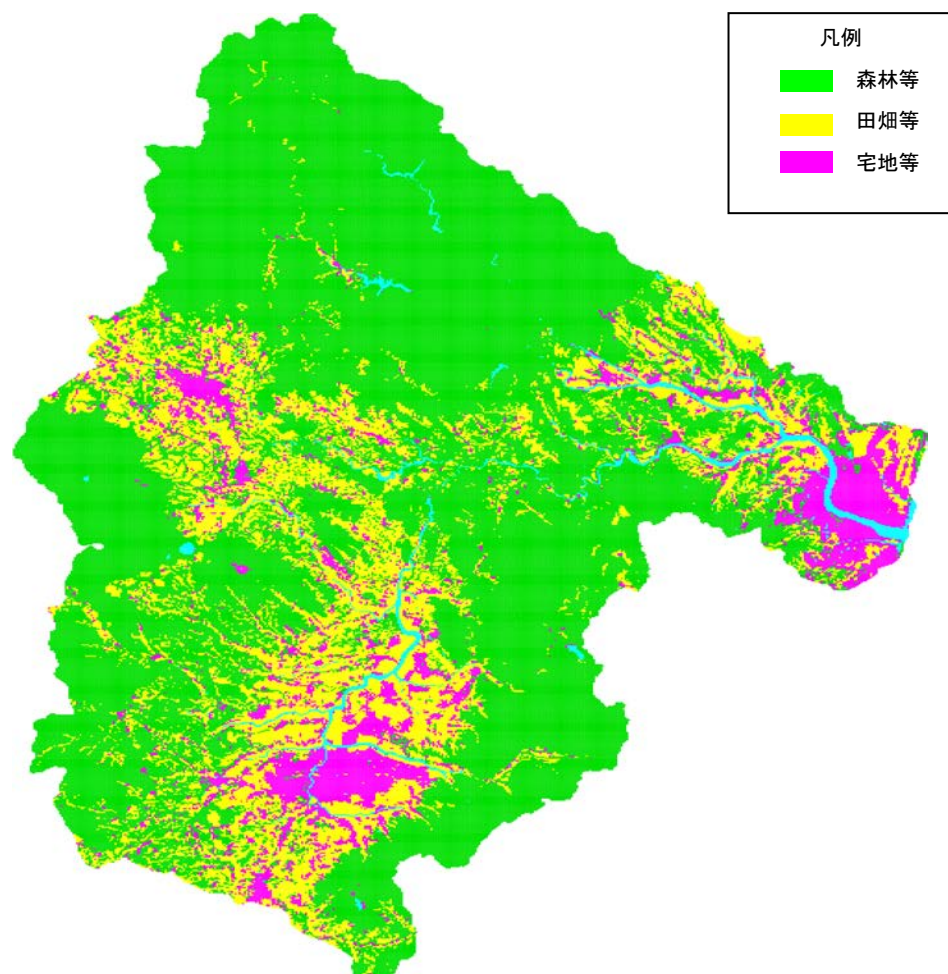


図3-2 大淀川流域における土地利用図

【出典：国土数値地図 H21土地利用メッシュデータ】

※国土数値地図において、田・その他の農用地・ゴルフ場を田畑等（黄色）として、建物用地・幹線交通用地・その他の用地を宅地等（赤色）として、森林・荒地を森林等（緑色）として整理。

### 3-3 産業・経済

流域内の総資産額は平成22年3月時点で約10兆80億円で、その約半分は家屋資産が占めている。

流域内の産業は、温暖な気候と大きな盆地、広い平野、豊かな森林に恵まれていることから特徴ある多様な農畜産業が盛んであり、中でも宮崎市や都城市で生産される宮崎牛やマンゴー等、「みやざきブランド」として全国各地に産出されている。

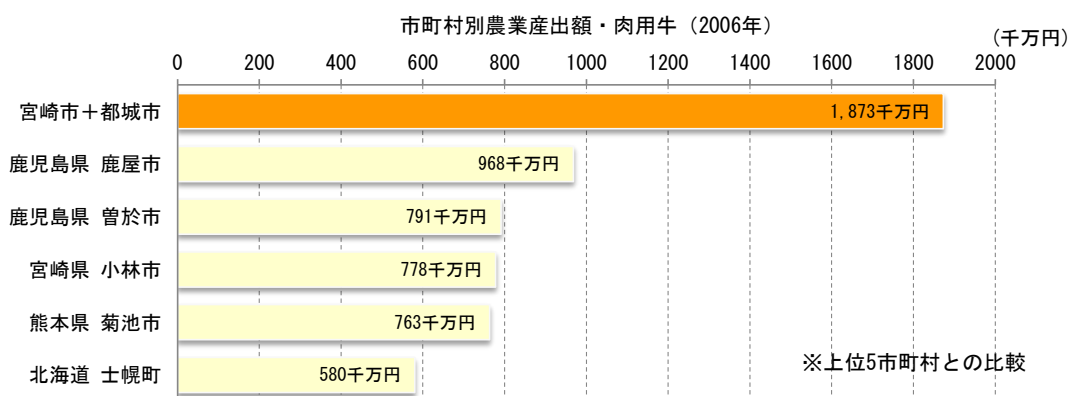
加えて霧島の伏流水により生み出される焼酎も日本一の出荷額を誇る。

表3-4 流域内資産額 (単位:百万円)

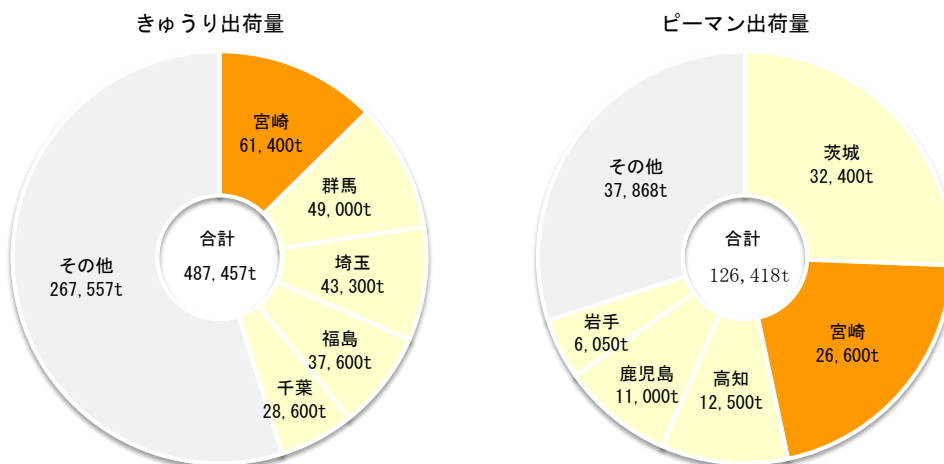
家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
4,806,509 (48.0)	3,595,148 (35.9)	1,561,396 (15.6)	44,690 (0.5)	10,007,743 (100.0)

注: ( ) 書きは合計に対する比率

【出典:平成22年3月第9回河川現況調査】



【出典:農林水産省 統計情報 わがマチ・わがムラ】



【出典:平成25年産野菜生産出荷統計】

図3-3 主な農畜産出荷額等

### 3-4 交通

大淀川流域の道路は、高規格幹線道路として宮崎市を中心に九州縦貫自動車道宮崎線や東九州自動車道が整備されており、九州各地を結ぶ交通の大動脈として期待される。

また、国道は北九州市から九州の東側を通り、宮崎市、都城市を経て鹿児島市へ至る国道10号を初め、熊本県人吉市を起点とし都城市へ至る国道221号、小林市を起点とし鹿児島県霧島市を経て霧島市隼人町へ至る223号、熊本県水俣市を起点とし小林市を経て宮崎市高岡町へ至る268号、鹿児島県指宿市を起点とし宮崎市へ至る269号等、九州南東部の主要な道路が流域内を通過している。

鉄道は北九州と鹿児島を結ぶJR日豊本線が流域を横断し、さらに、途中都城からJR吉都線が分岐し、えびの方向へ延びている。

日豊本線は大分市、延岡市、宮崎市等の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。また、宮崎県内の重要港湾である宮崎港、空の玄関口である宮崎空港においても物資等の輸送にも大きな役割を果たしている。

また、これからの道路整備として、拠点都市間の1時間構想や宮崎都市圏における宮崎環状道路、さらには九州唯一の中核国際港湾である志布志港（鹿児島県）と都城市を結ぶ地域高規格道路等の広域的な整備により、当流域における産業や地域の発展について、今後大いに期待できるものと考えられる。

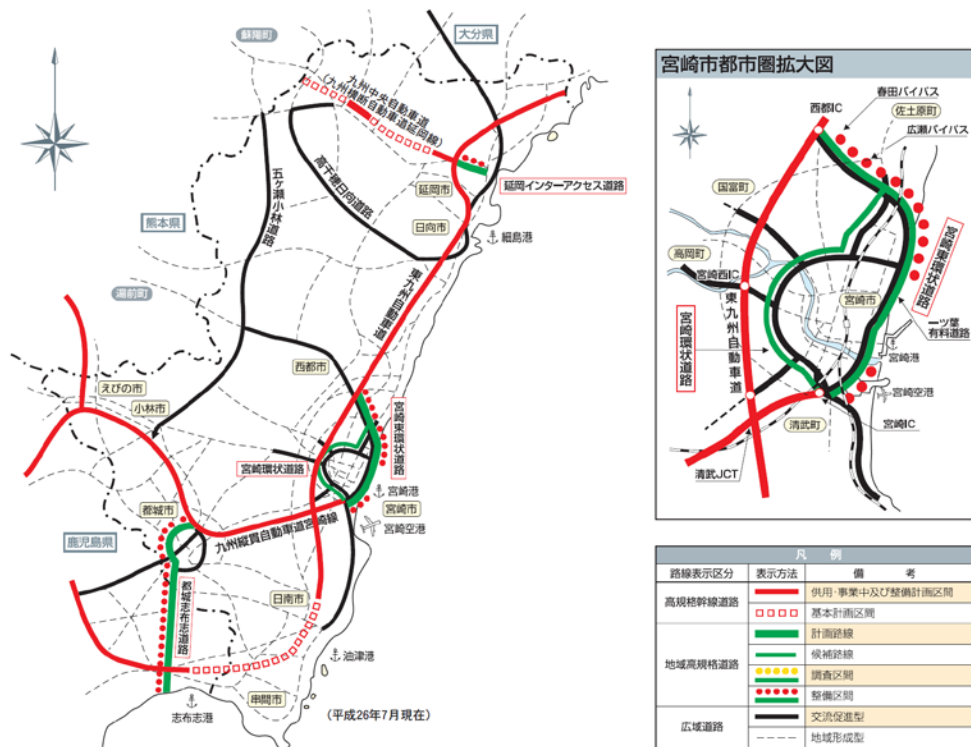


図3-4 宮崎県広域道路整備基本計画

【出典：みやざきの道路 2014】



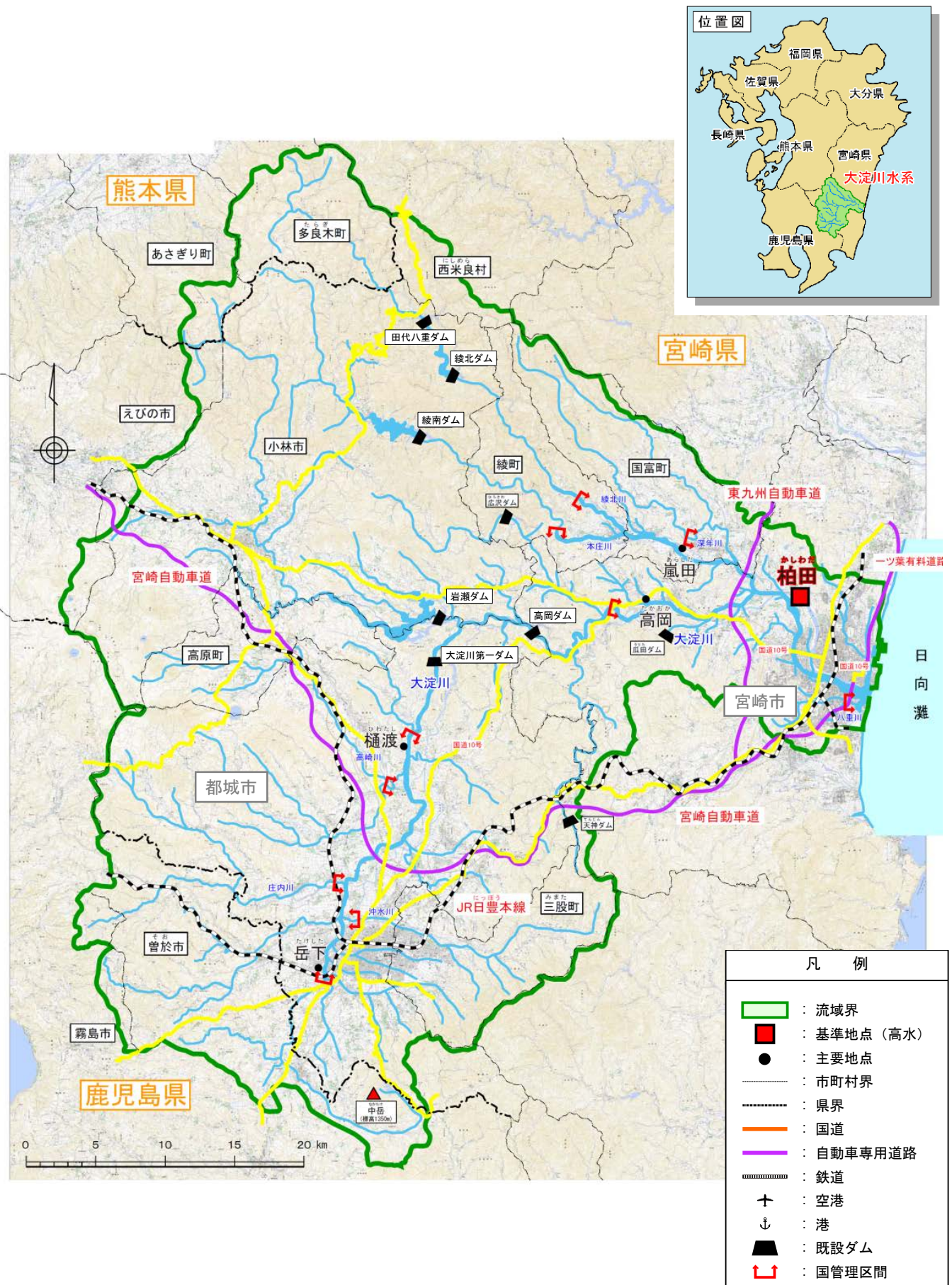


図 3-5 大 淀 川 流 域 交 通 体 系 図



## 第4章 水害と治水事業の沿革

### 4-1. 既往洪水の概要

大淀川流域の年雨量は約2,600mm程度であり、洪水の原因は8月～9月に発生する台風に伴う降雨によるものが多い。

大淀川の主要な洪水は昭和29年9月洪水、昭和57年8月洪水、平成5年8月洪水、平成9年9月洪水、平成16年8月洪水、平成17年9月洪水等である。昭和29年9月洪水や昭和57年8月洪水等、計画流量の改定の契機となった洪水も経験している。

#### (1) 明治13年(1880年)8月3～5日洪水

8月3日から降り出した雨は、4日から5日には暴風雨となり、大洪水を引き起こした。

その状況について公文録(県から政府に出した報告書)に、以下のように記述されている。

「増水の高さ2丈(6m)又は3丈(9m)あまりにもなって、堤防や道路の破壊、橋の流失破損、田畑の荒損、家屋の流失等、この数十年来まだ見たこともないほどの大水害で、人や牛馬の溺死もでた。」

(「大淀川の歴史」より)

#### (2) 大正元年(1912年)10月2日洪水

10月2日の台風による暴風雨は、県内に死者44人、負傷者19人、行方不明者3人、家屋の全壊822戸、半壊588戸、家屋の浸水9269戸という被害をもたらした。

(「宮崎県災異史」より)



大正中期ごろの大淀川の氾濫(旭通り)

(3) 昭和29年（1954年）9月10～13日洪水

台風12号の接近により、9月10日より降り始めた雨は12～13日に豪雨となり、総雨量は平野部で250～300mm、山地部で700～1000mmとなった。

河川の水位は12日夕刻、各地点共指定水位に到り、13日早朝、各々警戒水位に達するという異常な増水記録を示し、宮崎市高岡町を始めとする中流各地域、及び下流の宮崎市内には13日12時～13時に沿岸住民に対する避難命令が発令された。

この大洪水によって、浦之名川合流点付近、及び宮崎市高岡町狩野の一部は濁流にのまれ、大丸橋右岸取付道路約20mも13日18時頃の流失、下流では高松橋が13日18時頃流失、小戸橋も高松橋の流失橋材の為流失した。

宮崎県下の被害状況は、死者51人、負傷者62人、行方不明者13人、流失全壊家屋614戸、半壊683戸、床上浸水5906戸、床下浸水8228戸であった。（被害数は宮崎県災異史より）



提供：宮崎日日新聞社

<昭和29年9月洪水>

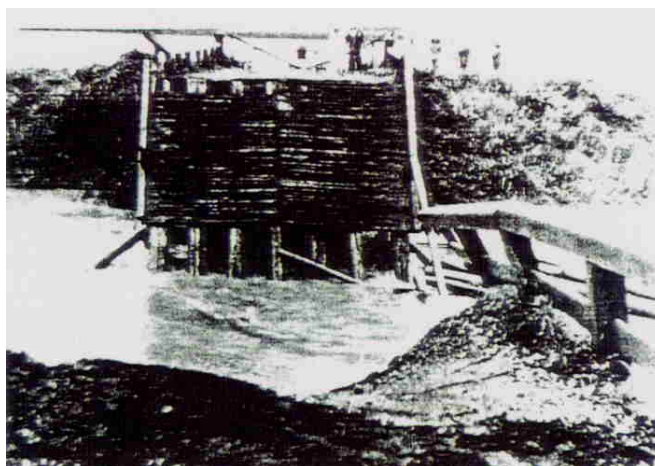


右岸大塚町付近の浸水状況（宮崎市）



流出寸前の赤星橋  
（都城市）

源野橋の流失  
（都城市・横市川）





<昭和29年9月洪水>



軒先まで浸水した家  
(宮崎市高岡町)

流出した高松橋 (宮崎市)



流出する二巖寺橋 (都城市)



(4) 昭和57年（1982年）8月25～27日洪水

台風13号が宮崎市付近を通過し、日向灘を北上したため、宮崎県下全域は暴風雨域に入り、25日～27日にかけて各地で大雨を降らした。

大淀川上流の三股で51mm、青井岳45mm、本庄川上流の田代八重42mm、須木44mmの時間雨量を記録し、総雨量も三股642mm、青井岳492mm、田代八重558mm、須木439mmとなった。

河川の水位も、26日22時には宮崎観測所で警戒水位3.70mを突破し、27日6時には最高水位5.40mを記録し、支川本庄川の嵐田観測所でも警戒水位3.60mを突破し、27日4時には最高水位5.24mを記録した。

流域では人的被害はなかったものの、家屋半壊18戸、床上浸水264戸、床下浸水463戸におんだ。



提供：宮崎日日新聞社

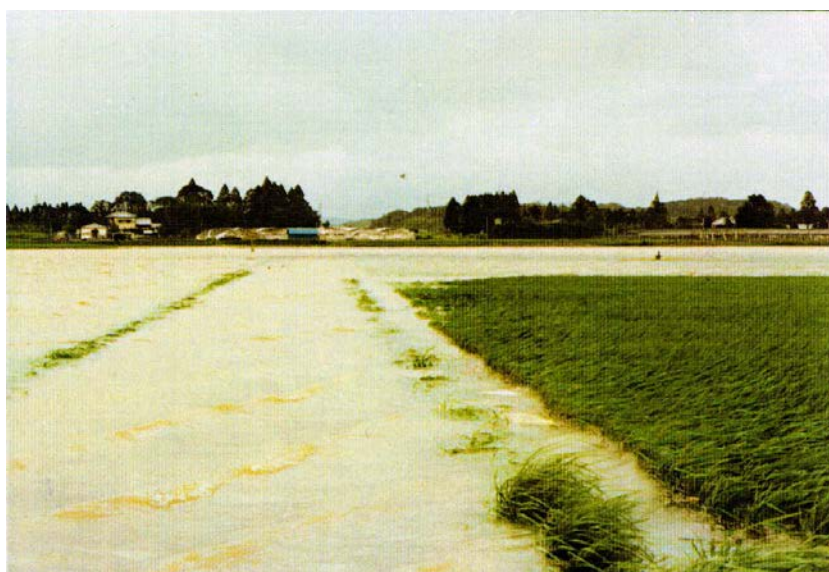


<昭和57年8月洪水>



下小松地区  
(8/000右岸付近)  
浸水状況

下小松地区  
(8/000右岸付近)  
浸水状況



下小松地区  
(8/000右岸付近)  
浸水状況



(5) 平成5年（1993年）8月1～2日洪水

前線の活発化に伴い、九州南部地方は大雨となった。大淀川流域では7月31日1時ごろより降り出した雨が断続的に降り続き、1時間に岳下で62mm、青井岳63mm、樋渡69mm降ったのを始め、8月1日の16時から17時の1時間に83mmを最高に流域全般で大雨が降り続いた。また、総雨量でも巢之浦の699mmを最高に、樋渡605mm、四家534mm、御池661mm等の降雨があり、最大3時間雨量でも樋渡の175mmを最高に、比曽木野166mm、御池152mmを記録した。

今回の8.1豪雨による降雨は流域全般にわたり大雨となり、各水位観測所で警戒水位を越す出水となった。

この洪水による被害は死者1人、負傷者2人、家屋の全壊12戸、半壊2戸、床上浸水771戸、床下浸水789戸におよんだ。



提供：宮崎日日新聞社

<平成5年8月洪水>



青柳川流域  
宮崎市大塚町  
高松橋方向を望む



宮崎市小松地区



(6) 平成9年(1997年)9月12~16日洪水

台風第19号の接近に伴い宮崎県全域が大雨となった。

大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、1時間に末吉で27mm、比曽木野で35mm、青井岳で36mm、また、三股では16日2時から3時の間に69mmを最高に大淀川上流域全般で大雨が降った。また、3時間雨量でも巢之浦137mm、霧島176mm、三股179mmを記録し、総雨量では青井岳515mm、槻木469mm、霧島836mm、三股873mmを記録した。

この雨により、大淀川全川で警戒水位を突破し、最高水位が岳下で5.31m、高岡で7.08m、柏田で8.22mと過去最高の水位を記録した。

関係市町村の被害は、死者2人、負傷者3人、家屋の全・半壊25戸、床上・床下浸水は985戸に及んだ。

## 台風19号 県内豪雨、河川はんらん

# 7万6500人に避難勧告



酒谷川の増水で住宅が孤立し、消防署員らにボートで救出される市民  
—16日午前10時20分

1人死亡 1人  
床上・床下

**濁流に土砂を押し寄せ、市街が孤立し、消防署員らにボートで救出される市民**

—16日午前10時20分—

**襲う土砂 迫る濁流**

山陽の  
近野地区  
の中心部  
へ、日南市  
から約

9号本線の被害

不明	1人
死傷者	1人
死者	1人
行方不明者	172人
救助者	456人

捜索



検索  
県内自然の

死者	1人
行方不明者	1人
負傷者	3人
全壊家屋	5棟
床上浸水	172棟
床下浸水	454棟

午後9時30分  
（県警）

神門で九八二、えびの高  
頭で九六九、日之能町見  
立て七八五を記録した。  
県内は十六日午後五時まで  
に南部が、同七時までには北  
部が暴風域を抜けた。宮崎市  
では青空もぞいだ。

【日南市以外の主な最大  
瞬間風速】 宮崎市（十六日

襲

父 入日午前十一時三十一分  
四三七七番に電話した  
十三午後六時十六日

父 入日午前十一時三十一分  
四三七七番に電話した  
十三午後六時十六日

提供：宮崎日日新聞社

<平成9年9月洪水>



宮崎市大塚地区

宮崎市福島地区



宮崎市高岡地区

<平成9年9月洪水>



宮崎市高岡地区

宮崎市瓜田地区



(7) 平成17年(2005年)9月4～6日洪水

大型で非常に強い台風14号は宮崎県内を暴風雨域に巻き込みながら、九州の西の海上をゆっくりとした速度で通過し、山地部を中心に総雨量が1,000mmを超える記録的な豪雨が発生した。県内でも記録的な豪雨をもたらし、連続雨量は青井岳で1,144mm、霧島1,374mmに達するなど、3日間で年間降水量の1/3超を記録した。

この雨により、基準地点柏田で9.89m、上流樋渡地点で10.65mと計画高水位を上回る観測史上最高水位を記録する等、大規模洪水の発生により大淀川水系の広範囲で洪水氾濫による多くの浸水被害が発生し、大淀川下流部の宮崎市・国富町・綾町等をはじめ、浸水面積3,321ha、浸水家屋4,706戸(床上3,834戸、床下872戸)に及ぶ甚大な被害が発生した。



<平成17年9月洪水>



都城市金田地区



都城市高城町有水地区



宮崎市高岡町内山地区



宮崎市高岡町麓地区



宮崎市瓜生野地区



宮崎市下小松地区

表4－1(1) 既 往 洪 水 一 覧 表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況
		日雨量	最高水位	流量	
S11年 7月22～23日 (暴風雨)	台風が九州西部の海上を通過した影響で宮崎県では22日朝から23日にかけて強い雨が断続的に続いた。県下の雨量は、西米良から都城盆地にかけて最も多く400mmを記録し、宮崎では最高水位5.58mに達した。大淀川では高松橋が流出し、本町橋が破損する等、流域内で大きな被害が生じた。	柏田上流域 266mm  嵐田上流域 296mm	宮崎 5.58m 柏田 6.00m 高岡 6.60m 嵐田 6.10m	柏田 不明  嵐田 不明	※県下の被害 死者 3名 負傷者 2名  家屋全壊 6戸 家屋半壊 7戸 家屋流出 7戸 家屋浸水 5173戸
S18年 9月18～20日 (台風26号)	台風26号が宮崎県に接近して、日向灘を北上したため、18日昼近く頃から20日にかけて各地に大雨をもたらした。各地点の雨量は都城447mm、宮崎494mmを記録し、流域では莫大な被害が生じた。	柏田上流域 342mm  嵐田上流域 303mm	高岡 7.69m 嵐田 6.28m	柏田 不明  嵐田 不明	※県下の被害 死者 114名 負傷者 161名 行方不明 1名  家屋全壊 567戸 家屋半壊 1165戸 家屋流出 508戸 床上浸水 9361戸
S24年 8月14～16日 (台風9号)	台風9号が九州南部に接近し、都城盆地を通過したため、宮崎県では15日夜半頃から風雨が次第に強くなり、14日より降り始めた降雨は都城435mm、須木755mmを記録した。台風9号は九州南部に上陸した後、非常に遅い速度で進行したため、大淀川では風雨による被害が甚大であった。	柏田上流域 253mm  嵐田上流域 346mm	高岡 6.02m	柏田 不明  嵐田 不明	※県下の被害 死者 7名 負傷者 15名
S29年 9月10～13日 (台風12号)	台風12号の接近によって、宮崎県では11日午後から風雨が次第に強くなった。9月10日より降り始めた降雨は都城で679mmを記録し、各地点の水位は13日早朝に警戒水位に達した。大淀川では増水のため、小戸橋、高松橋が流出し、ところどころで築堤が決壊して、流域では多大な被害が生じた。	柏田上流域 253mm  嵐田上流域 308mm	岳下 4.55m 高岡 7.77m 宮崎 6.40m 嵐田 5.52m	柏田 不明  嵐田 2399m <sup>3</sup> /s	死者 5名 負傷者 10名  家屋全壊 72戸 家屋半壊 215戸 家屋流出 28戸 床上浸水 3173戸 床下浸水 5303戸
S46年 8月26～30日 (台風23号)	台風23号による降雨は宮崎県の南部では27日早朝から始まり、30日に台風が通過後まで続いた。尾鈴山系及び鰐塚山系で1000mmを越える豪雨になった。上流岳下で29日18時に4.45m、中流高岡で29日23時に5.20m、下流宮崎で30日3時に5.50m、支川本庄川嵐田で30日4時に4.34mの最高水位を記録し、警戒水位を大きく上回った。	柏田上流域 230mm  嵐田上流域 414mm	岳下 4.45m 乙房 6.60m 高岡 5.40m 柏田 7.59m 宮崎 5.50m 嵐田 4.34m	柏田 5353m <sup>3</sup> /s  嵐田 2123m <sup>3</sup> /s	負傷者 4名  家屋全壊 4戸 家屋半壊 6戸 床上浸水 294戸 床下浸水 1083戸
S57年 8月24～27日 (台風13号)	台風13号が宮崎市附近を通過し、日向灘を北上したため、県下全域が暴風雨域に入り、25～27日にかけて各地に大雨を降らした。大淀川上流の三股51mm、青井岳45mmの時間雨量を記録し、総雨量も三股642mm、青井岳492mmを記録した。大淀川上流地区の水位は、26日15時頃から次第に上昇し始め26日22時には最高水位4.50mを記録した。支川本庄川の嵐田でも、27日4時には最高水位5.24mを記録した。	柏田上流域 285mm  嵐田上流域 383mm	岳下 4.50m 乙房 6.66m 樋渡 8.75m 高岡 6.36m 柏田 8.13m 嵐田 5.24m	柏田 7136m <sup>3</sup> /s  嵐田 2243m <sup>3</sup> /s	家屋半壊 18戸 床上浸水 264戸 床下浸水 463戸

表4-1(2)

既往洪水一覧表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況	
		日雨量	最高水位	流量		
H 1年 7月24～ 8月3日 (台風11号)	台風11号が九州の南部に上陸し、西部海上を通過したため、台風をとりまく東側の非常に強い雨雲が県内に入ってきた。27日午後から次第に雨脚が強まり28日0時から9時までに鰐塚山272mm、都城232mm、宮崎200mmを記録する豪雨となった。大淀川上流の水位は27日22時頃から次第に上昇し始め、岳下では28日4時30分に警戒水位を突破し、28日8時に最高水位4.45mを記録した。また、支川本庄川の嵐田では28日3時に警戒水位を突破し、28日8時に最高水位5.41mを記録した。	柏田上流域 292mm  嵐田上流域 383mm	岳下 4.44m 乙房 7.14m 樋渡 8.40m 高岡 5.97m 柏田 7.74m 嵐田 5.41m	柏田 6123m <sup>3</sup> /s  嵐田 2365m <sup>3</sup> /s	家屋半壊 62戸 床上浸水 79戸 床下浸水 323戸	
H 2年 9月27～29日 (台風20号)	台風20号が九州の南部をかすめて日向灘を北上したため、強雨域が県の中・南部に広がり、時間雨量は宮崎で18時に68mmを最強に、1時間20～60mmの強雨が6～7時間続いた。大淀川上流の水位は9月29日13時頃から次第に上昇し始め、岳下では29日19時には警戒水位を突破、29日19時には最高水位4.91mを記録、高岡でも29日17時には警戒水位を突破し、21時最高水位7.17mを記録した。	柏田上流域 183mm  嵐田上流域 122mm	岳下 4.91m 乙房 7.49m 樋渡 9.61m 高岡 7.17m 柏田 7.75m 嵐田 4.21m	柏田 6254m <sup>3</sup> /s  嵐田 961m <sup>3</sup> /s	行方不明者 1名 負傷者 5名  家屋全壊 2戸 家屋半壊 57戸 床上浸水 1187戸 床下浸水 1908戸	
H 5年 7月31日 ～8月2日 (前線)	前線の活発化に伴い、九州南部地方では大雨となった。大淀川流域では7月31日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、1時間に岳下で62mm、青井岳63mm、樋渡69mm降ったのを始め、8月1日の16時から17時の1時間に83mmを最高に、流域全般で大雨が降り続いた。また、総雨量でも巢ノ浦の699mmを最高に、樋渡605mm、四家534mm、御池661mm等の降雨があり、最大3時間雨量でも樋渡の175mmを最高に比曽木野166mm、御池152mmを記録した。今回の8.1豪雨による降雨は流域全般にわたり大雨となり、各水位観測所で警戒水位を越す出水となった。	柏田上流域 245mm  嵐田上流域 253mm	岳下 4.90m 乙房 6.55m 樋渡 9.67m 高岡 7.24m 柏田 8.10m 嵐田 4.45m	柏田 7016m <sup>3</sup> /s  嵐田 1459m <sup>3</sup> /s	死者 1名 負傷者 2名  家屋全壊 12戸 家屋半壊 2戸 床上浸水 771戸 床下浸水 784戸	
H 9年 9月14～16日 (台風19号)	台風19号の北上に伴い、宮崎県全域が大雨となった。大淀川流域では9月14日1時頃より降り出した雨が断続的に降り続き、16日1時頃より雨は強まり、総雨量では青井岳515mm、槻木469mm、霧島836mm、三股873mmを記録した。今回の台風19号による豪雨による降雨は、大淀川上流域を中心として大雨となり、岳下、高岡、宮崎、嵐田のすべての基準地点で警戒水位を大幅に越す大出水となった。	柏田上流域 249mm  嵐田上流域 273mm	岳下 5.28m 乙房 7.58m 樋渡 9.90m 高岡 7.07m 柏田 8.21m 嵐田 5.23m	柏田 6875m <sup>3</sup> /s  嵐田 1921m <sup>3</sup> /s	死者 2名 負傷者 3名  家屋全壊 1戸 家屋半壊 24戸 床上浸水 401戸 床下浸水 584戸	
H16年 8月29～30日 (台風16号)	台風16号における大気状態の不安定に伴い、宮崎県地方に大雨をもたらし、大淀川流域では、8月28日0時頃より降り出した雨が、断続的に降り続き、29日9時頃より雨は強まり、総雨量では三股で864mm、霧島で786mmの雨量を記録した。大淀川の水位は岳下、高岡、嵐田において危険水位を超過し、乙房、樋渡、柏田、宮崎で警戒水位を超過した。	柏田上流域 281mm  嵐田上流域 326mm	岳下 5.08m 乙房 7.43m 樋渡 9.80m 高岡 7.34m 柏田 8.16m 嵐田 5.24m	柏田 6476m <sup>3</sup> /s  嵐田 1663m <sup>3</sup> /s	負傷者 7名  家屋全壊 2戸 家屋半壊 5戸 家屋流出 7戸 床上浸水 164戸 床下浸水 203戸	

表4-1(3)

既 往 洪 水 一 覧 表

洪水年	出水概要	水文状況			被害状況	
		日雨量	最高水位	流量		
H17年 9月4～6日 (台風14号)	<p>大型で非常に強い台風14号は、山地部を中心に総雨量が1,000mmを超える記録的な豪雨をもたらし、連続雨量は青井岳で1,144mm、霧島1,374mmに達するなど、3日間で年間降水量の1/3超を記録した。</p> <p>この雨により、基準地点柏田で9.89m、上流樋渡地点で10.65mと計画高水位を上回る観測史上最高水位を記録する等、大規模洪水の発生により大淀川水系の広範囲で洪水氾濫による甚大な浸水被害が発生した。</p>	<p>柏田上流域 462mm</p> <p>嵐田上流域 624mm</p>	<p>岳下 4.90m 乙房 7.45m 樋渡 10.65m 高岡 9.01m 柏田 9.89m 嵐田 6.55m</p>	<p>柏田 946m<sup>3</sup>/s</p> <p>嵐田 2712m<sup>3</sup>/s</p>	<p>家屋全壊 908戸 家屋半壊 2147戸 床上浸水 3834戸 床下浸水 872戸</p>	

#### 4-2 治水事業の沿革

大淀川における明治以前の治水事業は、舟路維持をかねて下流部を中心にごく僅か行われたが、その後明治・大正にかけてもみるべき事業はなかった。

本格的な改修工事は昭和2年に直轄事業として着手したことに始まる。

昭和2年に着手した第一次工事は本庄川合流点下流で計画高水流量を $5,500\text{m}^3/\text{s}$ とするものであったが、相次ぐ戦争により予定どおりの進行がみられず、昭和18年9月の直轄事業着手以降最大の洪水により大災害を被った。

第二次工事は昭和18年9月の洪水をきっかけとして、都城市を中心とした上流域の直轄改修区域を追加するとともに、従来の築堤に加え下流部に導流堤及び突堤を施工した。

昭和28年に全川にわたる計画の再検討を行い、計画高水流量を宮崎地点で $7,000\text{m}^3/\text{s}$ 及び樋渡地点で $4,000\text{m}^3/\text{s}$ とそれぞれ改定した。その後の昭和28年西日本を襲った洪水を契機に綾南（昭和33年竣工）、綾北（昭和35年竣工）の両多目的ダムを建設などの第三次工事を行った。

昭和39年に着手した第四次工事は昭和29年8月及び9月の相次ぐ台風の来襲により、甚大な被害が発生したことにより、宮崎地点における基本高水のピーク流量を $7,500\text{m}^3/\text{s}$ とし、このうち既設2ダムに加え新たに岩瀬ダムを加え、計画高水流量を $7,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、捷水路の施工及び水衝部への護岸の設置に着手した。

この後、新河川法の施行により、第四次工事を踏襲する形で昭和40年4月に工事実施基本計画が策定された。

この計画に基づき、岩瀬ダムの建設（昭和42年竣工）、高木捷水路の開削、堤防の拡築及び護岸の設置等を実施した。

大淀川の上流域は、霧島山などの火山噴出物が堆積した脆弱な地質を呈しており、土砂災害の発生が危惧されることなどから、昭和25年度より上流域の沖水川において直轄砂防事業に着手し、昭和48年度に完成した。

また、昭和41年、43年、47年の度重なる災害を契機に、上流域の高崎川では昭和48年度より直轄砂防事業を実施している。

一方、河口部については、昭和58年に高潮堤防を概成させた後、平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災の教訓を受け、地震に伴う基礎地盤の液状化により、堤防が沈下した場合の浸水による二次被害のおそれがある区間については、耐震対策を進めた。

さらに、過去の出水時において漏水が発生した箇所、及び地質条件等から漏水のおそれがある区間については、漏水対策を実施した。

こうした治水事業を展開してきたものの、昭和57年8月、平成5年8月及び平成9年9月に当時の計画高水流量と同程度またはそれ以上の洪水が発生し、甚大な浸水被害も頻発していたため、これらの出水を契機に平成9年の河川法改正を受け、平成15年2月には基

準地点柏田における基本高水のピーク流量を $9,700\text{m}^3/\text{s}$ 、このうち綾南ダム、綾北ダム、岩瀬ダム等と併せ流域内の洪水調節施設により $1,000\text{m}^3/\text{s}$ を調節して計画高水流量を $8,700\text{m}^3/\text{s}$ とする「大淀川水系河川整備基本方針」が策定された。

その後、平成17年9月に観測史上最大となる洪水が発生し、河川激甚災害対策特別緊急事業が採択された。そのなか、同事業内容を踏まえた河川整備計画を平成18年3月に策定し、現在本計画に基づき、河川整備を行っている。



## 第5章 水利用の現状

### 5-1 水利用の変遷と現状

#### 1) 発電

大淀川の発電事業は、大正2年11月、大淀川支川岩瀬川水系に200kW（現在廃止）の高原発電所を設けたのが最初で、その後、大正15年1月に大淀川第一発電所、昭和3年に野尻発電所、昭和7年には、大淀川第二発電所と続いて発電所が建設された。

その後発電所の建設はなく、戦後、昭和33年綾第一南発電所、昭和34年綾第二発電所が綾川総合開発の一環として建設された。さらに、昭和42年7月には宮崎県により、高さ55.5mの他目的の岩瀬ダムが完成した。

現在における発電所数は16箇所にもものぼる。使用水量の総計は最大時約460m<sup>3</sup>/s、常時約100m<sup>3</sup>/s、最大出力は約21万kWである。

#### 2) 農業用水

大淀川流域のかんがい事業は用水路や井堰の改修、揚水機の設置等がその主なもので、水利施設の改善によりその経済効果は著しく向上しつつある。

本流域においては、かんがい用水路とともにため池を併用しているが、上流部には用水路や井堰が多く下流部においてはため池が多く見うけられる。かんがい面積について見ると大淀川水系の総かんがい面積は約22,000haである。

#### 3) 都市用水

大淀川流域において、直轄区間からの取水による上水道を有する市町村は宮崎市の2件のみである。指定区間における上水による水利用は無い。

工業用水については、流域内に大きな工場がなく、現在大淀川の豊富な水は、ほとんど利用されておらず1件のみである。しかしながら、すでに宮崎県中南部地区に低開発地域工業開発地区として10市町が指定されて、その内大淀川流域内に位置する地域も含んでいるため今後その需要も予測される。

## 5－2 渇水被害と渇水対応の現状

大淀川水系においては、渇水被害の発生は過去において生じていない。

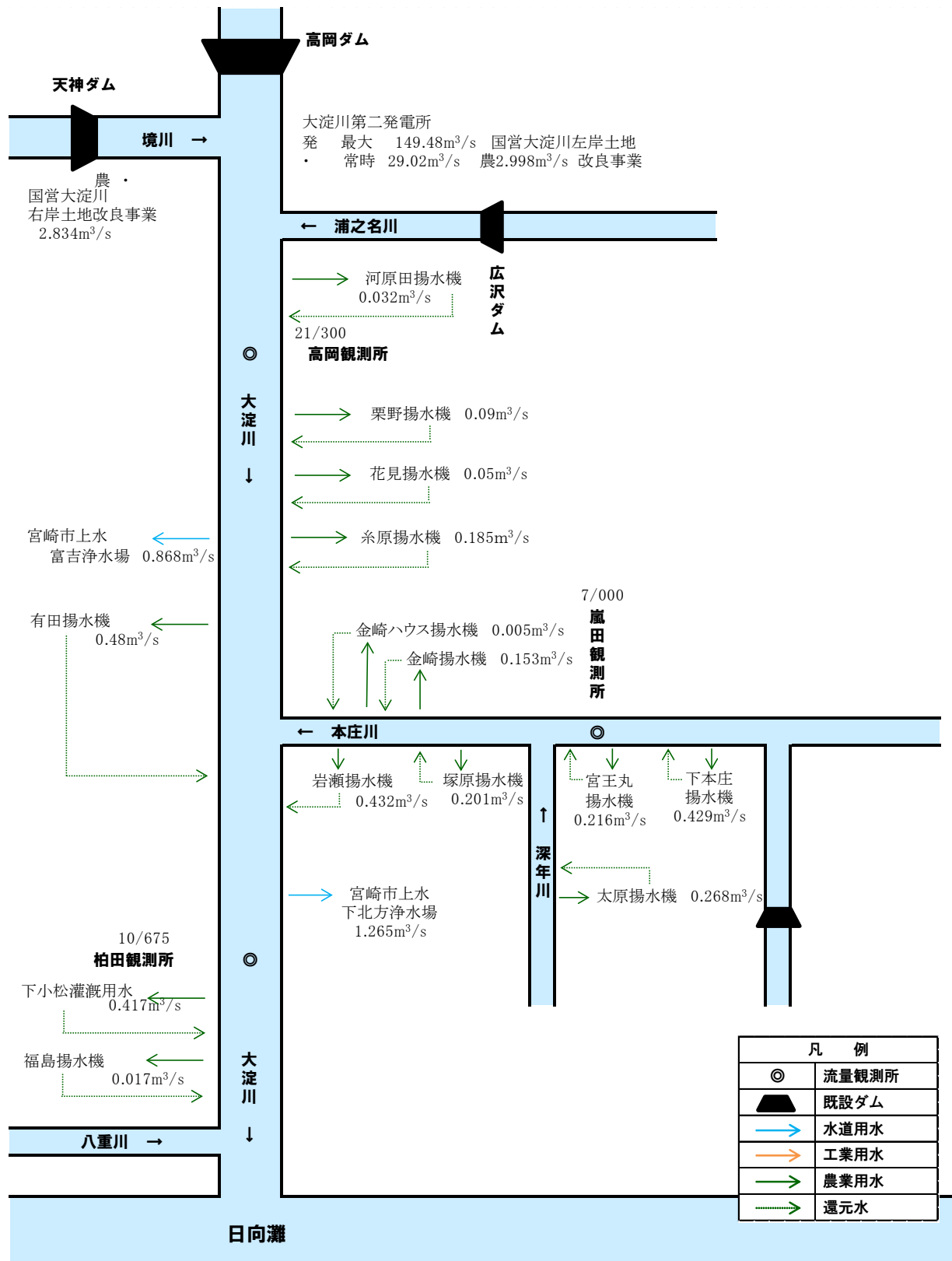


図5-1(1) 水 利 用 模 式 図 ( 大 淀 川 下 流 )

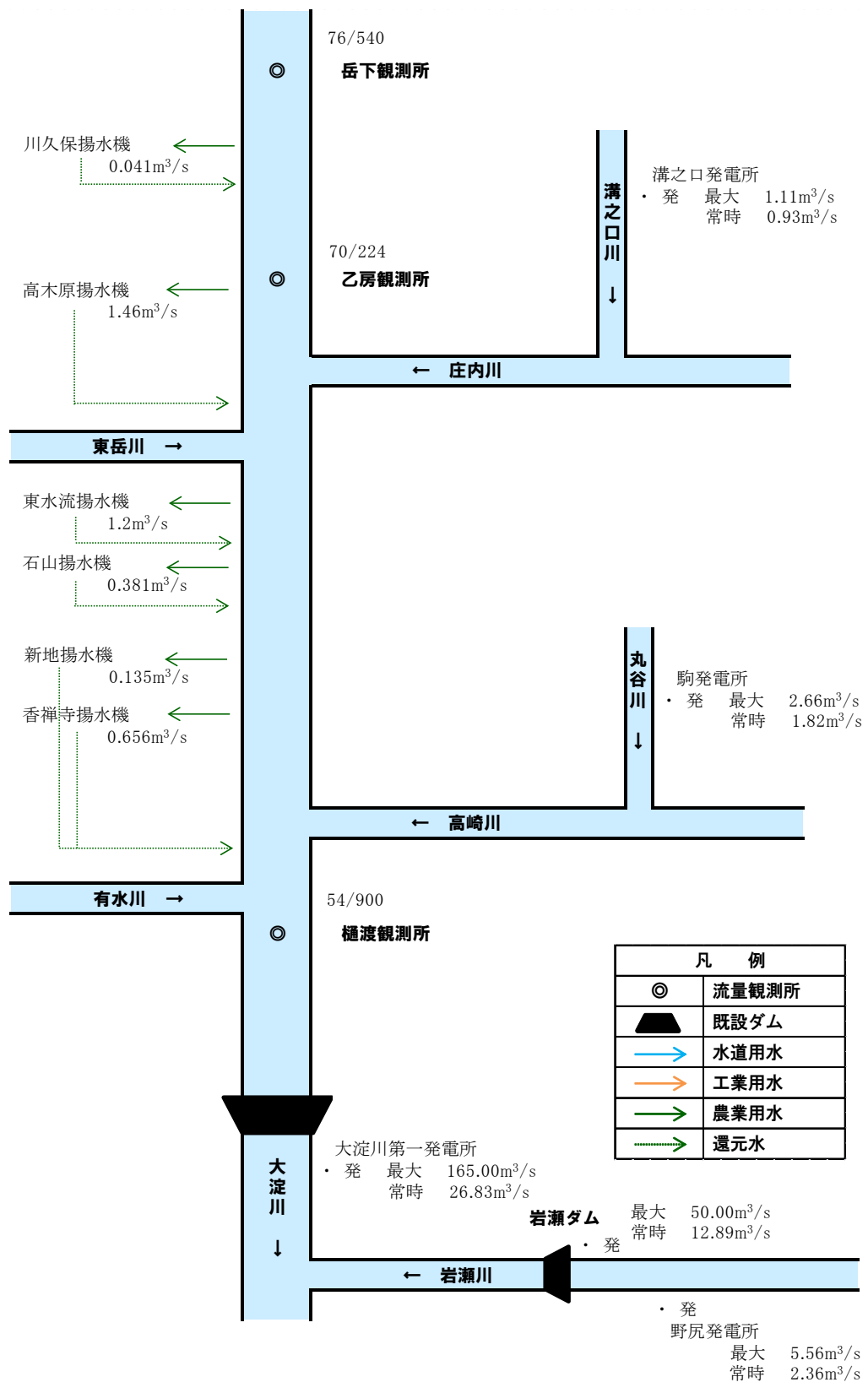


図5-1(2) 水 利 用 模 式 図 ( 大 淀 川 上 流 )

### 5－3 水利用に係る今後の方向性

大淀川水系では、発電用水、農業用水、都市用水等が取水されている。大淀川流域の大部分は、宮崎県に属しており、21世紀最初の計画として策定された「みやざき21世紀デザイン第五次宮崎県総合長期計画(平成13年2月)」によれば、宮崎県の水需要は、長期的に安定傾向にあると予測されている。

なお、農業用水や生活用水・工業用水などの需要を勘案しながら、将来にわたって安定供給に努める必要があり、水資源について、多目的ダムの整備や水源のかん養などにより安定的な確保を図るとともに、有効利用の普及啓発に努めていく必要がある。

## 第6章 河川の流況と水質

### 6-1 河川流況

大淀川の主要地点である高岡地点での流況は、下表に示すとおりである。昭和43年～平成25年までの46年間の平均値を見ると、低水流量が48.31 (m³/s)、渇水流量が32.97 (m³/s) となっている。

表6-1 (大淀川)高岡〔現況〕地点流況表

単位: m <sup>3</sup> /s									
No	西暦	和暦	最大 (m <sup>3</sup> /s)	豊水 (m <sup>3</sup> /s)	平水 (m <sup>3</sup> /s)	低水 (m <sup>3</sup> /s)	渇水 (m <sup>3</sup> /s)	最小 (m <sup>3</sup> /s)	年平均 (m <sup>3</sup> /s)
1	1968	昭和43年	1,015.66	66.69	50.29	43.40	30.24	23.17	86.01
2	1969	昭和44年	2,073.86	82.92	60.95	52.26	34.50	28.38	100.74
3	1970	昭和45年	811.62	114.06	78.34	54.65	35.22	30.57	114.92
4	1971	昭和46年	2,906.42	115.73	70.12	51.35	33.47	24.14	132.86
5	1972	昭和47年	1,638.89	137.58	85.13	70.03	49.50	38.82	143.96
6	1973	昭和48年	① 261.20	94.20	71.52	57.77	42.83	33.85	84.89
7	1974	昭和49年	676.22	71.99	53.54	41.33	27.62	22.66	② 67.44
8	1975	昭和50年	815.56	104.08	78.92	59.98	36.92	24.20	97.81
9	1976	昭和51年	2,188.38	108.31	79.84	61.89	40.53	25.77	117.07
10	1977	昭和52年	672.90	88.23	63.02	49.54	36.24	19.81	90.14
11	1978	昭和53年	1,018.22	③ 65.22	④ 48.26	39.50	25.71	17.61	④ 72.35
12	1979	昭和54年	1,437.84	91.71	70.63	45.76	26.52	20.27	104.82
13	1980	昭和55年	1,187.38	132.78	93.49	71.66	49.86	35.12	121.57
14	1981	昭和56年	② 457.63	81.36	57.98	49.56	39.74	21.24	76.72
15	1982	昭和57年	2,486.90	88.74	70.58	49.88	30.94	23.95	103.99
16	1983	昭和58年	998.20	145.32	83.47	56.85	41.61	35.39	131.26
17	1984	昭和59年	2,264.70	80.23	59.43	47.91	37.44	29.53	92.54
18	1985	昭和60年	1,391.68	110.59	72.68	50.51	28.39	25.03	107.97
19	1986	昭和61年	③ 457.73	74.30	54.34	42.50	33.01	25.87	76.67
20	1987	昭和62年	1,006.87	120.54	80.97	58.31	30.12	27.18	114.96
21	1988	昭和63年	535.56	97.30	61.85	44.10	35.35	25.80	87.06
22	1989	平成元年	2,749.00	105.04	66.93	45.71	34.20	26.17	114.41
23	1990	平成2年	1,858.44	102.04	71.79	55.50	29.22	22.42	115.67
24	1991	平成3年	960.16	116.16	74.69	58.36	42.33	32.13	118.36
25	1992	平成4年	1,139.63	97.96	64.52	51.96	32.68	28.26	98.88
26	1993	平成5年	3,087.93	200.25	92.21	46.04	32.64	22.20	219.57
27	1994	平成6年	1,113.39	④ 65.88	50.05	38.80	27.53	23.69	③ 70.97
28	1995	平成7年	896.05	73.60	③ 46.33	③ 32.62	③ 22.24	③ 14.82	76.74
29	1996	平成8年	1,087.10	80.62	52.13	④ 33.13	④ 23.11	19.56	89.86
30	1997	平成9年	3,064.79	85.51	53.84	40.52	27.42	20.23	96.30
31	1998	平成10年	1,047.37	107.66	70.81	49.10	35.88	31.93	102.15
32	1999	平成11年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
33	2000	平成12年	1,009.22	104.39	67.75	44.84	28.41	25.04	105.86
34	2001	平成13年	1,082.91	91.81	62.27	49.70	39.57	33.80	91.04
35	2002	平成14年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
36	2003	平成15年	2,154.80	105.61	70.84	54.16	39.65	33.44	110.59
37	2004～2006	平成16～18年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
38	2007	平成19年	1,951.97	② 63.13	② 41.75	34.53	27.09	② 14.59	77.03
39	2008	平成20年	985.53	81.68	49.76	33.79	24.78	21.25	81.33
40	2009	平成21年	④ 495.58	① 57.24	① 38.33	② 30.44	① 19.41	① 11.23	① 51.81
41	2010	平成22年	1,708.81	113.15	62.62	43.59	23.97	20.26	114.47
42	2011	平成23年	2,272.57	91.30	53.20	① 27.48	② 19.73	④ 17.58	105.00
43	2012	平成24年	1,077.90	144.09	81.03	59.16	36.97	32.52	144.15
44	2013	平成25年	901.57	79.05	62.30	52.34	39.01	31.32	86.90
近年10ヶ年 (H16～H25)	最大		2,272.57	144.09	81.03	59.16	39.01	32.52	144.15
	最小		495.58	57.24	38.33	27.48	19.41	11.23	51.81
	平均		1,341.99	89.95	55.57	40.19	27.28	21.25	94.38
近年20ヶ年 (H6～H25)	最大		3,064.79	144.09	81.03	59.16	39.65	33.80	144.15
	最小		495.58	57.24	38.33	27.48	19.41	11.23	51.81
	平均		1,389.97	89.65	57.53	41.61	28.98	23.42	93.61
近年30ヶ年 (S59～H25)	最大		3,087.93	200.25	92.21	59.16	42.33	33.80	219.57
	最小		457.73	57.24	38.33	27.48	19.41	11.23	51.81
	平均		1,452.05	97.97	62.50	45.00	30.81	24.63	102.01
近年40ヶ年 (S49～H25)	最大		3,087.93	200.25	93.49	71.66	49.86	35.39	219.57
	最小		457.63	57.24	38.33	27.48	19.41	11.23	51.81
	平均		1,347.27	97.81	64.82	47.47	32.46	24.88	100.51
全資料 近年46ヶ年 (S43～H25)	最大		3,087.93	200.25	93.49	71.66	49.86	38.82	219.57
	最小		261.20	57.24	38.33	27.48	19.41	11.23	51.81
	平均		1,388.98	98.49	65.33	48.31	32.97	25.39	102.36
1/10 (S43～H25:4位/41力年)			495.58	65.88	48.26	33.13	23.11	17.58	72.35

※○数字は小さい順位を示す



## 6-2 河川水質

### 1) 環境基準

大淀川水系における水質汚濁に係る環境基準の類型指定は表6-2、図6-1に示すとおりである。

表6-2(1) 大淀川環境基準設定状況(宮崎県知事告示)

水 域 の 範 囲	類 型	達成 期間	指定年月日
大淀川上流(岳下橋より上流)	A	ロ	昭和48年1月20日設定
大淀川中流(岳下橋から高崎川合流点まで)	B	ロ	
大淀川下流(高崎川合流点より下流(左岸入江を除く))	A	ロ	
庄内川上流(関之尾滝より上流)	AA	イ	
庄内川下流(関之尾滝より下流)	A	ロ	
丸谷川上流(渡司川合流点より上流)	AA	イ	
丸谷川下流(渡司川合流点より下流)	A	ロ	
渡 司 川	AA	イ	
高崎川上流(湯之元川合流点より上流)	AA	イ	
高崎川下流(湯之元川合流点より下流)	A	ロ	
沖水川上流(三股橋より上流)	AA	イ	
沖水川下流(三股橋より下流)	A	ロ	
東岳川上流(山之口橋より上流)	AA	イ	
東岳川下流(山之口橋より下流)	A	ロ	
岩 瀬 川	A	ロ	
境 川	AA	イ	
浦之名川	AA	イ	
綾北川上流(湯之谷川合流点より上流)	AA	イ	
綾北川下流(湯之谷川合流点より下流)	A	ロ	
本庄川上流(上畑橋より上流)	AA	イ	
本庄川下流(上畑橋より下流)	A	ロ	
深 年 川	A	ロ	
辻の堂川	A	ロ	昭和49年4月30日設定
石 氷 川	A	イ	平成7年4月1日設定
萩 原 川	A	イ	
三 名 川	AA	イ	平成8年4月1日設定
谷之木川	AA	イ	
炭 床 川	A	イ	
花の木川	A	イ	
城の下川	A	イ	平成9年4月1日設定
年 見 川	A	ロ	平成16年4月1日設定

表6-2(2) 大淀川環境基準設定状況(鹿児島県知事告示)

水 域 の 範 囲	類 型	達成 期間	指定年月日
大淀川上流(宮崎県境から上流)	A	ロ	昭和48年6月29日設定
横市川上流(宮崎県境から上流)	A	ロ	
溝之口川上流(庄内川合流点から上流)	A	イ	

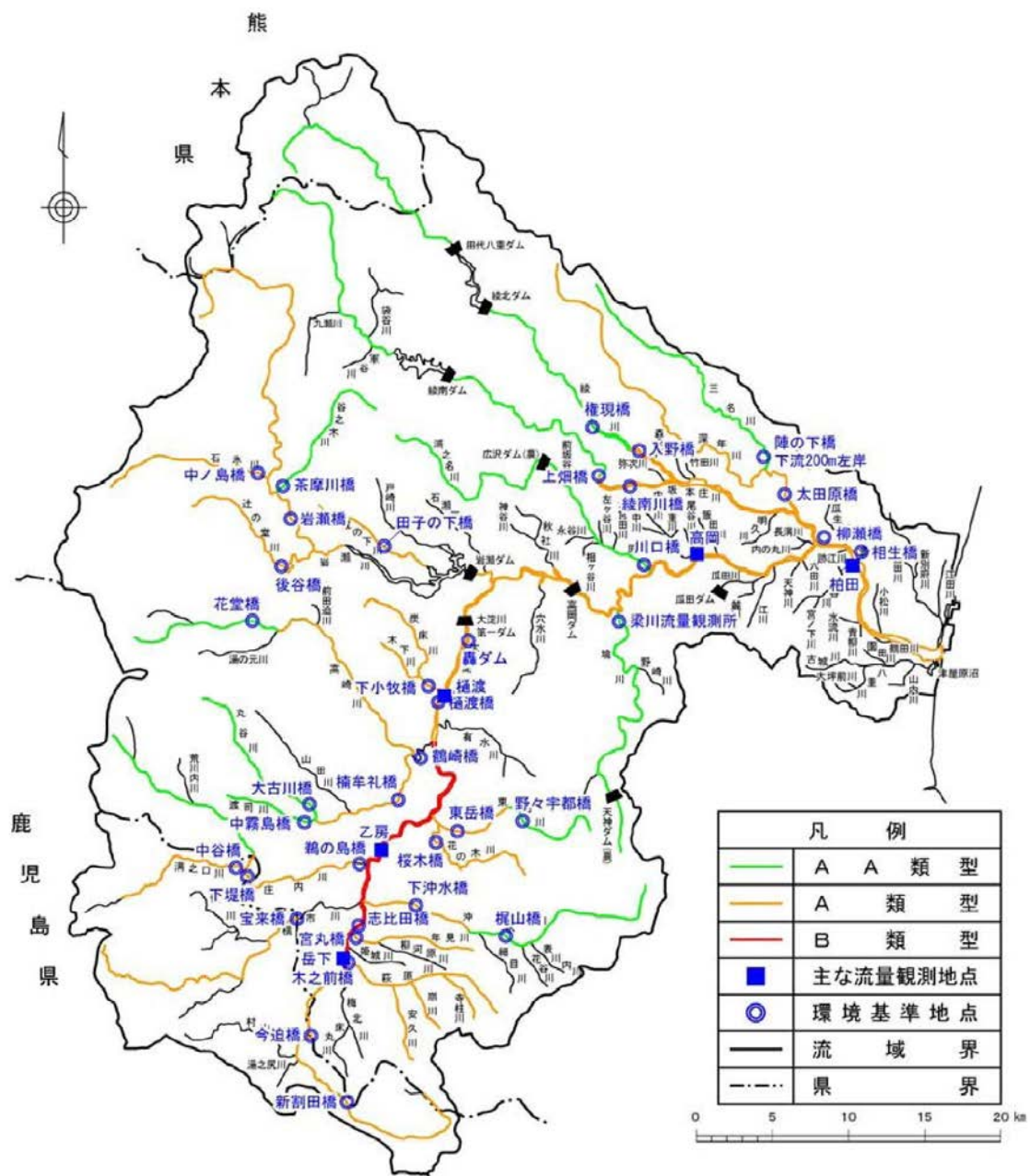


図6-1 環境基準類型指定状況図

## 2) 主要地点の現状

大淀川上流域の下水道普及率が低く(H24末、約39%)、また都城市を中心とした上流域は畜産業が盛んな地域であること等から、上流域の水質は下流域よりも相対的に高い数値で推移している。また、大淀川水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)が平成16年7月に策定され、関係機関で水質改善に取り組んでいる。

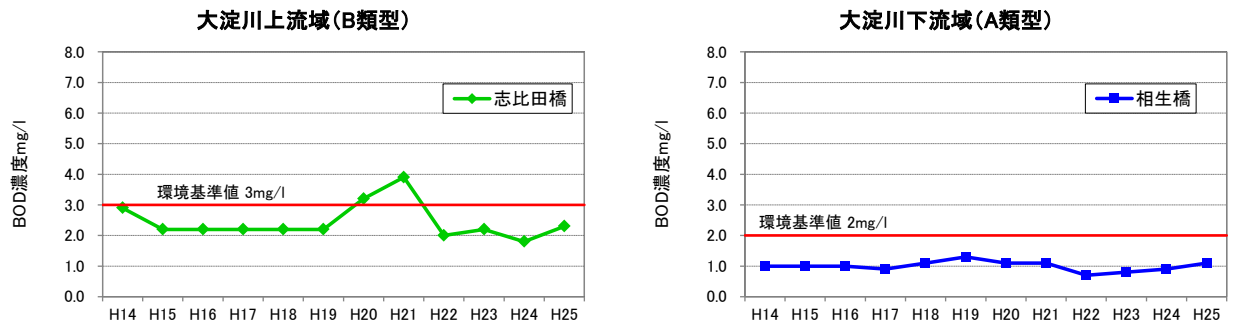


図6-2 大淀川本川における水質(BOD75%値)の経年変化

## 第7章 河川空間の利用状況

### 7-1 河川の利用状況

#### 1) 上流部（樋渡上流）

上流部には関之尾の滝と甕穴、長田峡等の景勝地が多く、その周囲には宿泊レジャー施設が整備され、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わう。

また、各種イベント（曾於市末吉町カヌー大会、都城市高城町イカダくだり大会等）が催され、活発に利用されている。

#### 2) 中流部（宮崎市街部上流）

宮崎平野までの狭窄部となる中流部は釣り場が多く、大淀川第一、第二ダムや岩瀬ダムがあり、岩瀬ダム湖（野尻湖）は毎年9月上旬には「九州地区釣り大会」が開かれるなど、多くの釣り人で賑わう。

#### 3) 下流（宮崎平野～河口）

##### （1）大淀川

宮崎市街部が位置する下流部は、河川利用が盛んであり、大淀川の歴史・自然・文化を学べる「大淀川学習館」が整備され、さらに、遊びながら自然とふれあえる河川空間づくりを目指し、「大淀川水辺の楽校プロジェクト事業」も整備が行われている。

高水敷では各種イベント（大淀川納涼花火大会、大淀川イカダ下り大会等）が開かれ、8月中旬には大淀川河畔「橘公園」で「みやざき夏の夜祭り」が開催されている。

川の水と海水が混ざり合う河口付近では、釣りの良場として多くの釣り客で賑わう。

##### （2）本庄川

上流に日本一の照葉樹林の面積を有する本庄川は、その豊かな自然環境を利用し、河川プールやキャンプ場が整備され、自然との触れ合いを楽しめ、秋には五穀豊穡を祈願して、河川敷で相撲大会、郷土芸能等が催される。





大淀川学習館



大淀川親水公園



本庄川で行われるリバーフェスタ

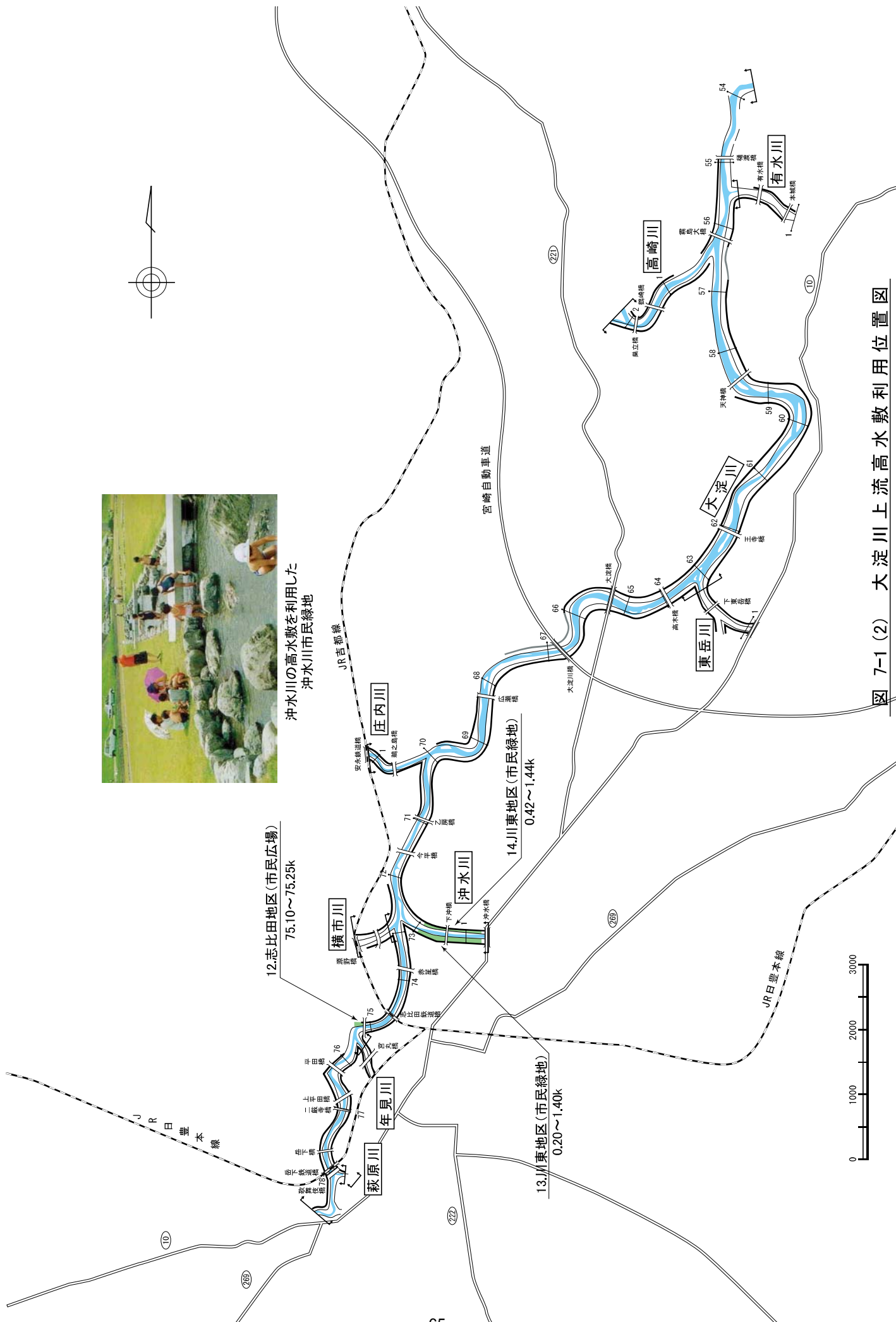
7-2 河川敷の利用状況

表7-1 河川空間の公園・グラウンド利用内訳表

種別	河川	No.	距離標 (km)	左右 岸	地 区	利用目的	施設面積 (㎡)	管理者	備考
公 園	大淀川	1	1.30～2.40	右岸	田吉地区	市民緑地	108,363.99	宮崎市長	
		2	3.00～3.20	右岸	東大淀地区	市民緑地	788.34	宮崎市長	
		3	3.61～3.64	右岸	太田地区	市民緑地	132.00	宮崎市長	
		4	3.75～3.85	右岸	橋南地区	市民緑地	757.79	宮崎市長	
		5	3.15～3.85	左岸	橋公園	公園	2,265.81	宮崎市長	
		6	3.85～4.10	左岸	橋西地区	市民緑地	13,832.55	宮崎市長	
		7	4.15～6.50	左岸	鶴島地区	市民緑地	137,505.95	宮崎市長	
		8	5.35～6.60	右岸	大塚地区	市民緑地	63,646.32	宮崎市長	
		9	6.60～9.18	右岸	下小松地区	市民緑地	147,912.71	宮崎市長	
		10	10.20～10.40	左岸	瓜生野地区	市民緑地	20,010.92	宮崎市長	
		11	12.85～13.05	左岸	大瀬町地区	市民緑地	23,004.67	宮崎市長	
		12	75.10～75.25	左岸	志比田地区	市民広場	3,173.91	都城市長	
		13	78.11～78.34	左岸	川の駅公園		8,294.31	都城市長	
	本庄川	14	15.40～15.60	左岸	元町地区桜堤公園		1,758.22	綾町長	
	綾北川	15	12.48～12.57	右岸	入野橋公園		1,198.65	綾町長	H27.3完成制定
	八重川	16	1.50～1.65	左岸	姥ヶ島街区公園		5,815.80	宮崎市長	
	沖水川	17	0.20～1.42	左岸	下川東地区	市民緑地	82,737.60	都城市長	合計112,411.5
		18	0.43～1.40	右岸	吉尾町地区	市民緑地	29,673.93	都城市長	
ゴルフ場	大淀川	1	9.18～11.70	右岸	ゴルフ練習場	市民緑地	343,213.83	宮崎市長	
運動場	大淀川	1	14.60～14.70	右岸	富吉運動広場	ゲートボール	2,208.36	宮崎市長	
		2	17.26～17.31	左岸	花見運動広場		2,000.00	宮崎市長	
		3	18.60～19.00	左岸	橋山運動広場	運動広場	33,731.57	宮崎市長	
	本庄川	4	8.30～8.40	左岸	田尻運動広場		14,272.14	国富町長	
		5	9.10～9.80	右岸	向高運動広場	運動広場	36,253.21	国富町長	
		6	12.98～13.18	左岸	三本松運動広場	ゲートボール	36,511.06	綾町長	
		7	10.35～10.45	左岸	森永農村広場	運動広場	4,284.60	国富町長	
	深年川	8	3.50～3.60	左岸	三名運動広場		2,702.43	国富町長	
	綾北川	9	14.80～14.90	右岸	北俣運動広場		1,669.12	綾町長	

(平成26年度 宮崎河川国道事務所資料より)





沖水川の洪水敷を利用した  
沖水川市民緑地

図 7-1 (2) 大淀川上流高水敷利用位置図



## 第8章 河道特性

大淀川は、その源を鹿児島県曾於市中岳に発し、北流して都城盆地に出て、霧島山系等から湧き出る豊富な地下水を水源とする数多くの支川を合わせつつ狭窄部に入り、岩瀬川等を合わせ東に転流して宮崎市高岡町に出て、最大の支川本庄川と合流し宮崎平野を貫流しながら宮崎市において日向灘に注いでいる流域面積2,230km<sup>2</sup>、幹川流路延長107kmに及ぶ九州屈指の河川である。

河床勾配は、上流部では約1/1,000 程度、中流部で約1/200～1/800 程度、下流部では約1/1,000～1/5,000 程度となっている。

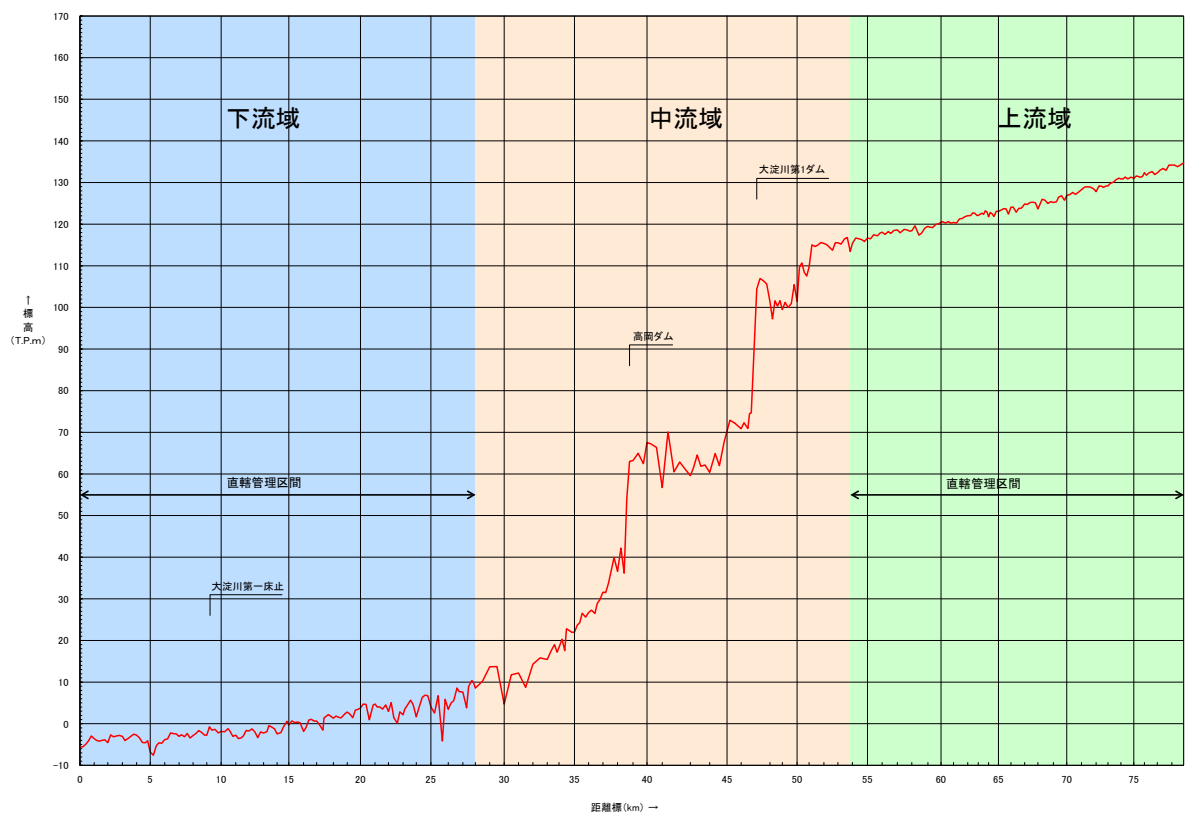


図8-1 大淀川の河床勾配(最深河床高)

## 第9章 河川管理の現状

### 9-1 河川管理区間

大淀川は、幹川流路延長107kmの一級河川であり、以下の区間を国が管理している。

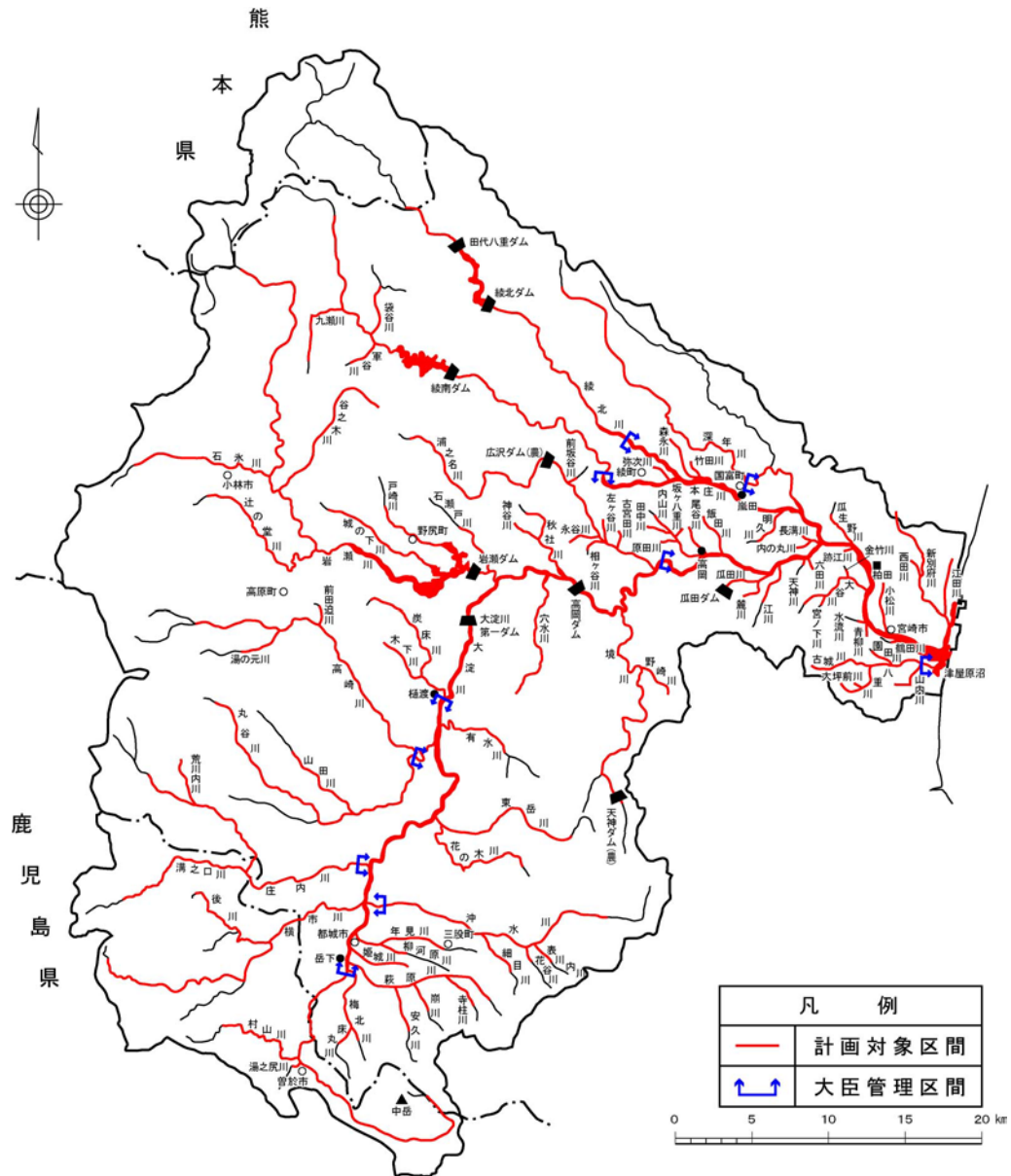


図9-1 大淀川水系の国管理区間

表9-2 大 淀 川 水 系 の 国 管 理 区 間

河川名	上流端	下流端	区間延長 (km)
大淀川下流	宮崎県宮崎市高岡町浦之名 ふるかわ 古川4,576 番の 1 地先の国道 ゆのきざき 柚の木崎橋	海	28.4
大淀川上流	左岸 都城市大字 五十町字瀬 戸上 1,294 番の 2 の乙 地先 右岸 都城市大字五十町字 ふちわき 湊脇5,294 番の 3 地先	左岸 宮崎県都城市高崎町 なわけ 縄瀬下小牧 4,188 番地 先 右岸 宮崎県都城市高城町 ありみず かみおおくぼ 有水上大久保 1,223 番 の 92 地先	23.4
八重川	宮崎市大字田吉字 西田 <sup>にしだ</sup> 1,115 番の 1 地先の農道橋下流端	大淀川への合流点	2.0
本庄川	左岸 宮崎県東諸県郡綾町大 字入野字 四枝 <sup>よつえ</sup> 607 番の 1 地先 右岸 宮崎県東諸県郡綾町大 字入野字 中川原 <sup>なかがわら</sup> 118 番 の 2 地先	大淀川への合流点	16.7
深年川	左岸 宮崎県東諸県郡国富町 大字本庄字 石原 <sup>いしはら</sup> 7,795 番地先 右岸 宮崎県東諸県郡国富町 大字本庄字 中川原 7,186 番地先	本庄川への合流点	6.6
綾北川	左岸 宮崎県東諸県郡綾町大 字北俣字 尾谷 <sup>おたに</sup> 3,709 番 地先 右岸 宮崎県東諸県郡綾町大 字北俣字 裏田 <sup>うらのた</sup> 1,778 番 の 3 地先	本庄川への合流点	4.4
高崎川	左岸 宮崎県都城市高崎町縄 瀬 <sup>なかひら</sup> 中平965 番の 20 地 先 右岸 都城市大字 岩満町 889 番の 2 地先	大淀川への合流点	2.0
庄内川	都城市庄内町字 東牟田 <sup>ひがしむた</sup> 9,784 番の 4 地先の鉄道橋下流端	大淀川への合流点	1.2
沖水川	左岸 都城市大字川東字下川 原 2,494 番地先 右岸 都城市大字川東字 なかおした 中尾下4,055 番地先	大淀川への合流点	1.4
計			86.1

## 9-2 河川管理施設

堤防や護岸は、経年的な老朽化や不同沈下、降雨・浸透・洪水・地震等の自然現象、車両乗り入れ等人為的な影響を受けることにより、変形やクラック等が発生し、放置すると洪水時の変状拡大や大規模な損傷に繋がる。また水の浸透等によって、クラックや堤体土質のゆるみの進行に繋がり、堤防の弱体化をまねく恐れがあり、大淀川では、堤防の変状や漏水とともに護岸の老朽化が確認されており、適切な維持管理が必要である。

また、大淀川では樋門・樋管、排水機場など「176」の施設があり、これらの施設は、昭和40年（1965年）～昭和50年（1975年）代に築造されたものが多い状況である。

洪水、津波、高潮等に対して所要の機能が発揮され、円滑な施設操作が図られるよう、平常時から巡視・点検等を行い適正な管理に努めるとともに、ライフサイクルコストの縮減も検討し長寿命化に繋がるよう計画的に補修を行い、各施設の機能を良好な状態に維持していくこととしている。

表9-2 大淀川 国河川管理施設数

堰	水 門	床 止	排水機場	樋門樋管等	計
0	10	4	8	154	176



### 9-3 河道内植生

大淀川の河川区域内の植生については、植生の有する治水機能・環境機能を十分に考慮して、定期的に調査・点検を行い、適切に管理している。特に、大淀川4/200～6/200左岸のヨシ群落はオオヨシキリやサギ類の営巣・生息の場、その下流の丸島にみられるタブノキ等の河畔林はミサゴやサギ類の生息の場となっていることから、治水と環境の調和を図る方向にて管理している。



## 9-4 水防体制

### 1) 河川情報の概要

大淀川では、流域内にテレメータ雨量観測所28箇所、テレメータ水位観測所20箇所を設置し、迅速に情報収集するとともに、これらのデータを用いて河川の水位予測等を行い、流域住民の防災活動等に活用している。

また、常に河川の状況等を把握するためのCCTV カメラ（11箇所）を設置し、事務所ホームページで閲覧可能としている。

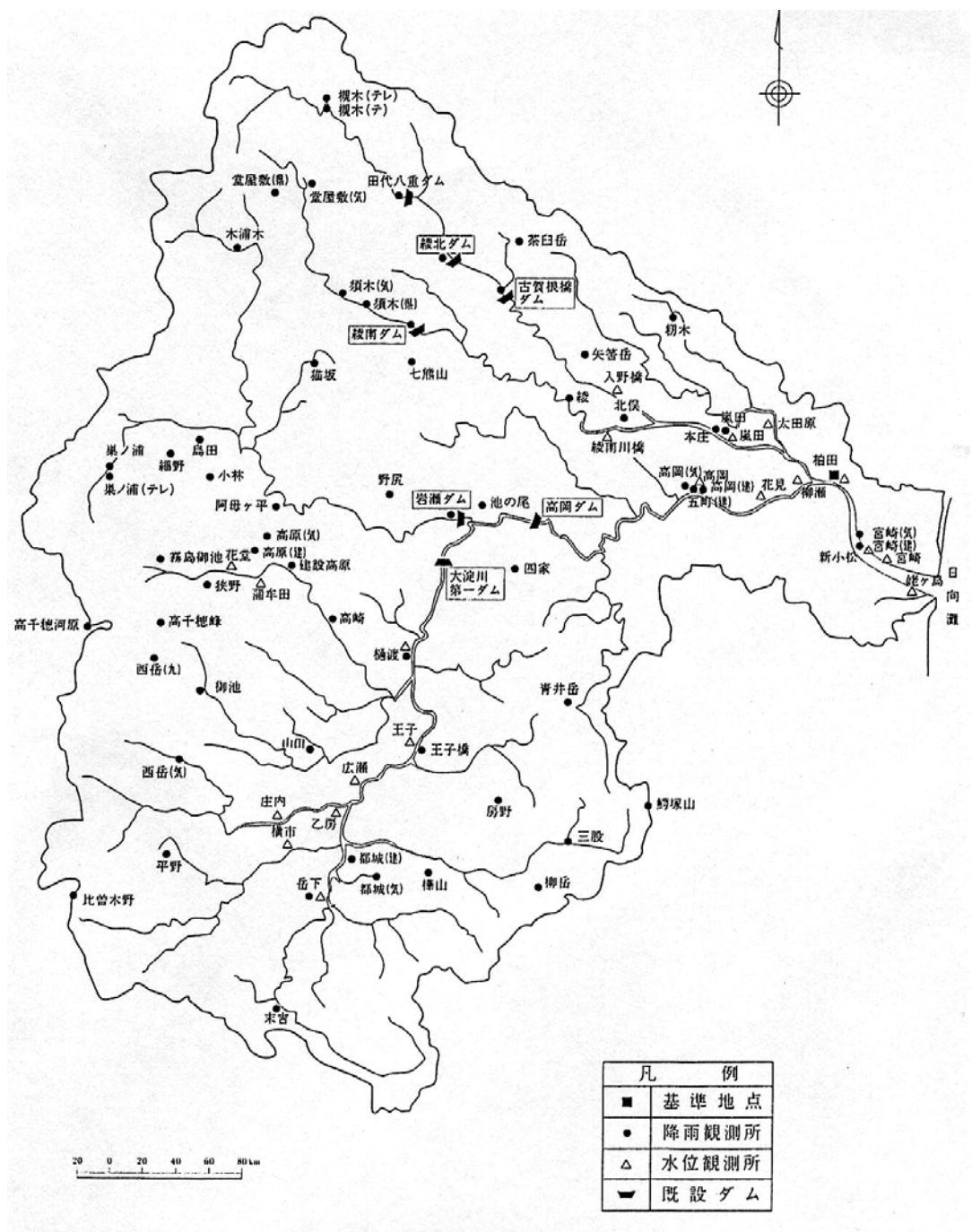


図9-2 大淀川流域水文観測所位置図

(大淀川下流)

**河川** 安全とるおいを提供する河川整備  
 ホーム >> 河川ライブ映像トップ >> 大淀川下流域マップ [\[前に戻る\]](#)

**大淀川下流域ライブ映像** マップのカメラアイコンをお選びください

映像をご覧いただくには、Windows Media Playerが必要です  
[Windows Media Player 9 Series](#) 最新版はこちらから

大淀川水系大淀川 31k800左岸  
 宮崎県宮崎市大淀川宮崎水位観測所  
[大淀川橋橋](#)  
[WM動画を見る](#)

本庄川本庄橋 本庄川柳瀬橋 大淀川大丸橋 大淀川花見橋 大淀川相生橋 大淀川橋橋 大淀川河口

※カメラ画像をクリックすると拡大表示します

(大淀川上流)

**河川** 安全とるおいを提供する河川整備  
 ホーム >> 河川ライブ映像トップ >> 大淀川上流域マップ [\[前に戻る\]](#)

**大淀川上流域ライブ映像** マップのカメラアイコンをお選びください

映像をご覧いただくには、Windows Media Playerが必要です  
[Windows Media Player 9 Series](#) 最新版はこちらから

大淀川水系大淀川 71k000右岸  
 宮崎県都城市乙房橋付近  
[大淀川乙房橋](#)  
[WM動画を見る](#)

大淀川岳下橋 大淀川平田橋 大淀川乙房橋 大淀川橋渡橋

※カメラ画像をクリックすると拡大表示します

図9-3 CCTVカメラ画像による情報提供状況

【出典：事務所HP】

## 2) 水防警報の概要

大淀川では、洪水・高潮による災害が起こる恐れがある場合に、各水位観測所の水位に応じ県を通じて水防管理者に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速かつ、的確に行われるよう水防警報を発表している

## 3) 洪水予報

大淀川は水防法第10条第2項に基づく、洪水予報指定河川のため、宮崎地方気象台と共同で洪水予報の発表を行い、流域への適切な情報提供を実施している。水位の状況・予測や流域の雨量の状況・予測等を報道機関を通じて一般住民に分かりやすく迅速に情報提供している。



## 9-5 危機管理の取り組み

防災情報の活用、広域防災ネットワーク・情報ネットワークの構築等、ソフト対策の充実を図り、自助・共助・公助が連携した危機管理対策プランを推進するため、水防連絡会、洪水予報連絡会及び出前講座など様々な機会を通じて積極的に情報発信を行っている。

### 1) 事前情報の提供

日頃から水害に備えるための事前情報として、浸水想定区域図をもとに作成する洪水ハザードマップがある。洪水ハザードマップは出水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るためのツールとして、各世帯に配布したり一般へ周知することで、自分の住んでいる地域が氾濫等により、どのような浸水被害を受けるのか認識を深めることができ、また、緊急時の水防、避難活動等にも活用されている。

#### ●洪水浸水想定区域図

水防法の規定により河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものを記載した地図である。

大淀川においては、平成15年に大淀川本川の浸水想定区域図を作成している。

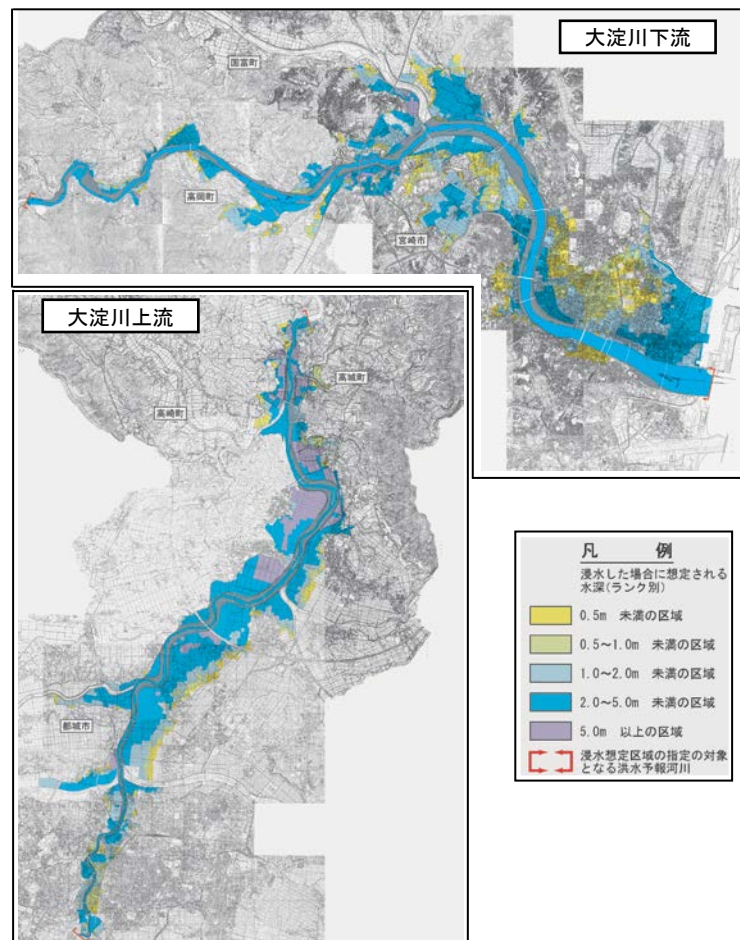


図9-4 大淀川洪水浸水想定区域図

●洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域図を基にして、浸水・氾濫情報等に避難場所、避難経路の位置、情報入手先などの各種防災情報を具体的に表示した地図で、市町村が作成している。

●水防情報図

洪水時に重点的に巡視点検が必要な箇所など河川管理者や水防管理者（市町村）、水防団・消防団等、水防関係者の水防活動に役に立つ情報を載せた地図である。

大淀川水系では国管理区間について作成し、更新している。

2) 災害発生時の自治体への支援

自治体が管理する河川等において、大規模な災害等が発生又は発生する恐れがある場合には、必要に応じて災害対策用機器等の資機材や職員を派遣し、迅速に情報を収集・提供し、また応急復旧等を緊急的に実施する場合には、必要に応じて応急復旧資材を提供するなどの支援を行うこととしている。また、県の範囲を超えた大規模な災害等にも適切に対応するため、広域的な視点から各県の防災計画の策定等にあって、積極的に参画、協力することとしている。

## 第10章 地域との連携

大淀川は、市街地を貫流し、流域住民のいこいの場として愛されており、地元住民の大淀川に対する想いは大きく、かつ市街部における貴重な水と緑のオープンスペースとして地域住民のニーズが高い状況にある。

大淀川では、河川協力団体と協働で河川一斉清掃や水辺の安全教室を実施し、河川の維持、河川環境の保全や防災教育を行うとともに、流域で活動する住民団体との連携・協働により水生生物調査や河川愛護イベントを開催し、河川愛護精神の醸成や環境教育の支援を行うなど地域と連携した河川管理を推進している。



河川一斉清掃活動



水辺の安全教室



水生生物調査



河川愛護イベント（魚の掴み取り）